

大月市 第8次健康増進計画

～みんなで作ろう！健康で心豊かな緑あふれる大月市～

(素案)

目次

第1章 計画の基本的事項.....	1
1 計画策定の趣旨.....	1
2 計画の位置付け.....	1
3 計画の期間.....	1
4 計画の策定経過.....	2
第2章 大月市の現状と課題.....	3
1 統計データからみる大月市の現状と課題.....	3
2 アンケート結果からみる大月市の現状と課題.....	33
3 第7次健康増進計画の評価.....	52
第3章 基本方針.....	62
1 計画の基本理念.....	62
2 計画の基本的な方向性.....	62
3 計画の体系.....	63
第4章 健康づくりの取組み.....	65
1 子ども.....	65
2 働きざかり.....	72
3 高齢者.....	78
第5章 計画の評価.....	83
1 指標と目標.....	83
第6章 計画の推進体制.....	90
1 計画の推進体制.....	90
2 計画の進行管理・評価.....	91
資料.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
1 大月市第8次健康増進計画策定委員会設置要綱.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
2 大月市第8次健康増進計画策定委員会名簿.....	エラー! ブックマークが定義されていません。

第1章 計画の基本的事項

1 計画策定の趣旨

わが国では、生活環境や食生活の改善、医学の進歩等により、平均寿命は年々伸びており、世界有数の長寿国となる一方で、少子高齢化が急速に進行しています。また、ライフスタイルの変化等により、生活習慣病の増加や、働く世代のメンタルヘルス対策も課題となっていると言えます。

国においては、「21世紀における国民健康づくり運動 健康日本21（第2次）」を策定し、健康寿命の延伸、生活習慣病の予防等の方向性が示されました。山梨県においても、国の上位計画を受けて、県民一人ひとりが自ら健康を守ること、社会全体が個人の健康を支え、守る健康づくりに努めることとした「健やか山梨21（第2次）」を策定しています。

このような中で、本市においても「大月市第7次健康増進計画」を策定し、市民の健康づくりに向けた取り組みを展開しています。平成29年度をもって、計画期間を満了することから、現行計画の評価をもとに、これまでの一連の取り組みを継続し、さらなる健康づくりを図るために、国・県の動向を踏まえ「大月市第8次健康増進計画」の策定を行います。

2 計画の位置付け

本計画は健康増進法第8条2項に規定された市町村健康増進計画として位置づけられ、本市における健康に関する施策の方向性の総合的な指針となるものです。

なお、策定にあたっては、国の「健康日本21（第2次）」や「健やか親子21（第2次）」、県の健康増進計画「健やか山梨21（第2次）」、との整合性に配慮し策定します。また、大月市第7次総合計画を上位計画とし、大月市地域福祉計画、大月市高齢者福祉計画・介護保険事業計画、大月市障害者福祉計画、大月市障害福祉計画・障害児福祉計画、大月市子ども・子育て支援事業計画などの個別・分野別計画と連携を図るものです。

3 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間とし、最終年度の平成34年度に、本計画の評価・見直し及び次期計画の策定を行います。なお、社会動向の変化や計画の進捗状況に対応して、見直しを行うこととします。

4 計画の策定経過

(1) 市民アンケート

市民に対して、健康意識と日常生活の状況に関してアンケート調査を実施し、第7次健康増進計画の評価及び第8次健康増進計画の基礎資料とすることを目的としました。

①調査期間

平成29年8月18日（金）～平成29年9月4日（月）

②調査方法

郵送配布・郵送回収

③対象者

- ❖ 乳幼児・小学生：大月市在住の乳幼児及び小学校に通うお子さんの保護者
- ❖ 中学生～18歳：大月市在住の中学生から18歳までの方
- ❖ 一般市民：大月市在住の満19歳以上の方

④回収結果

	発送数	有効回収数	有効回収率
乳幼児・小学生	750	299	39.9%
中学生～18歳	750	241	32.1%
一般市民	1,500	605	40.3%

(2) パブリックコメント

計画素案ができた段階で、幅広く市民より意見を募集し、計画への反映に努めるために、パブリックコメントを行いました。

①実施期間

平成30年2月7日（水）～平成30年2月28日（水）

②提出方法

指定する場所への書面の提出、郵便、ファクシミリ、メール

(3) 策定委員会

計画の策定においては、市民をはじめとした様々な意見が反映されるよう、健康増進に関わる関係者、市民代表、福祉関係者等の参画を得て、策定委員会を設置し、計画の検討・調整等を行いました。

第2章 大月市の現状と課題

1 統計データからみる大月市の現状と課題

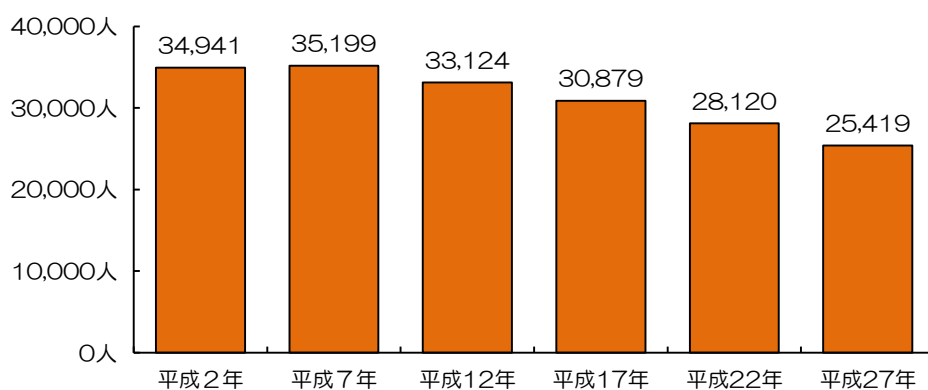
(1) 人口・世帯構造

① 年齢区分別人口

本市の総人口は、年々減少し、少子高齢化が進行しています。

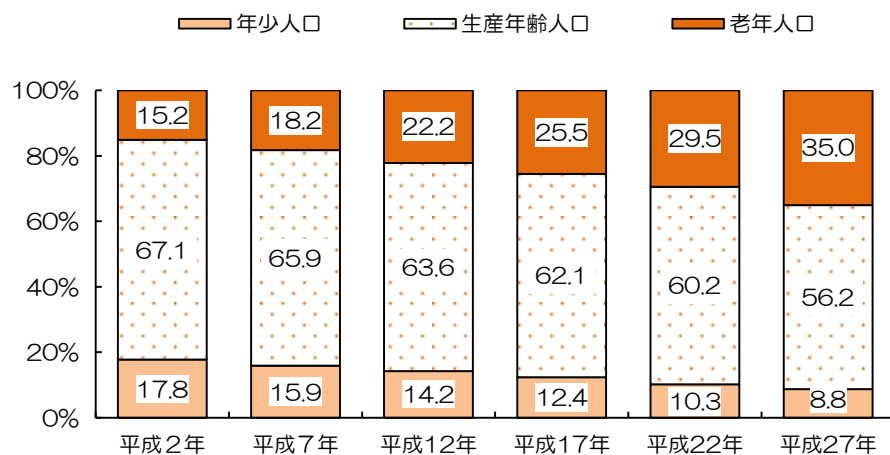
平成27年の65歳以上の高齢者の割合は34.7%（2.9人に1人）で、今後、少子高齢化はますます加速していくものと予想されます。

■ 総人口の推移



資料：国勢調査

■ 年齢3区分別人口割合の推移

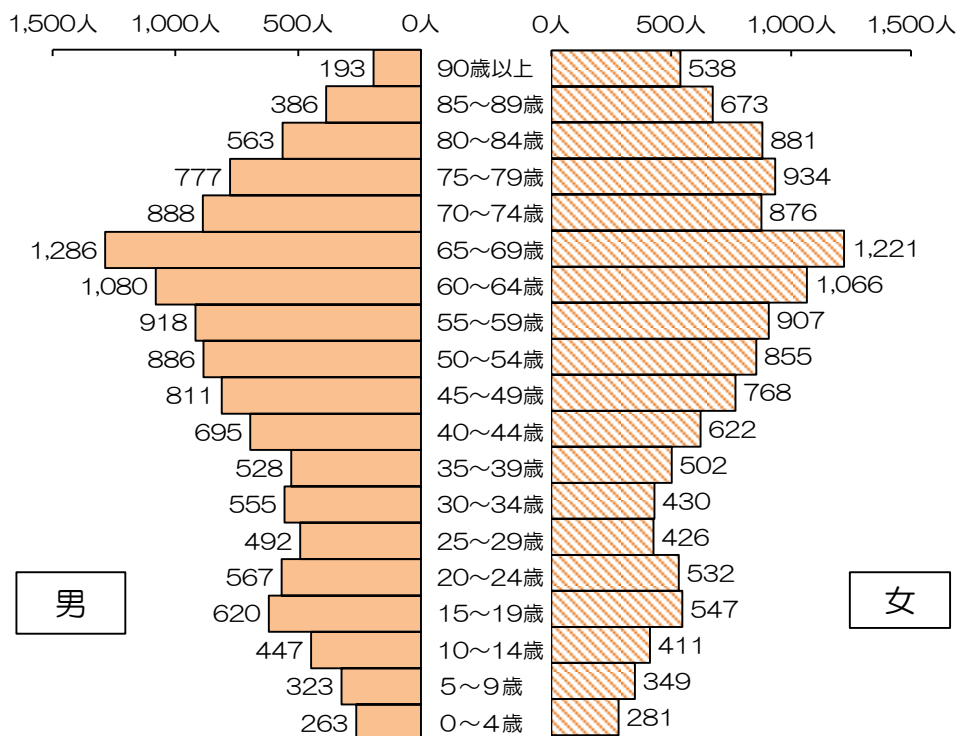


資料：国勢調査

② 5歳階級別人口

平成29年度の5歳階級別人口の状況は、下図のとおりです。人口が最も多い年齢層は男女とも65～69歳で、その前後で減少しています。

■平成29年度人口ピラミッド

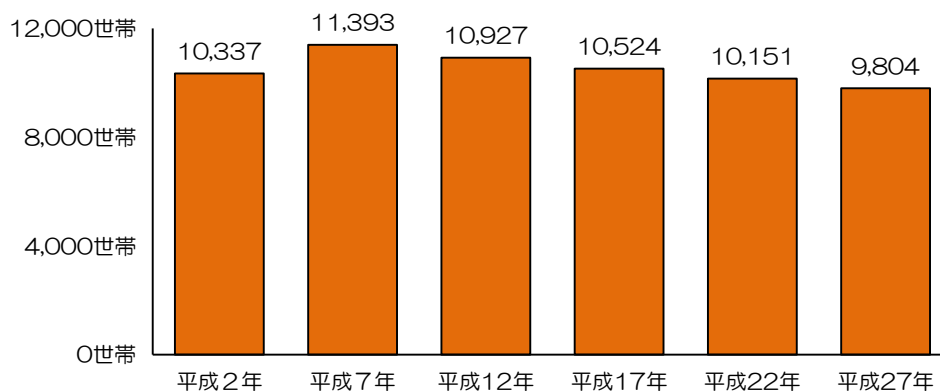


資料：平成29年8月1日市民課毎月1日現在人口等集計表

③ 総世帯数

平成7年までは世帯数は増加していましたが、それ以降は減少に転じており、平成27年には世帯数は9,804世帯となっています。また、1世帯員の数では、平成27年は2.6人/世帯となっています。

■総世帯数の推移



資料：国勢調査

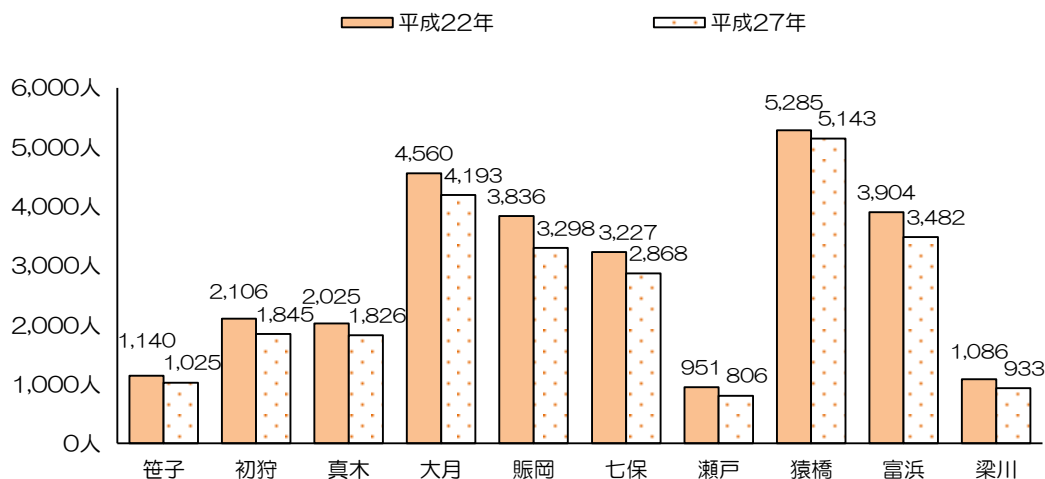
④地区別人口・世帯数

大月市の地区別の人口・世帯数ともに減少傾向となっています。

大月市内の人口を地区別にみると「猿橋地区」が最も多くなっています。

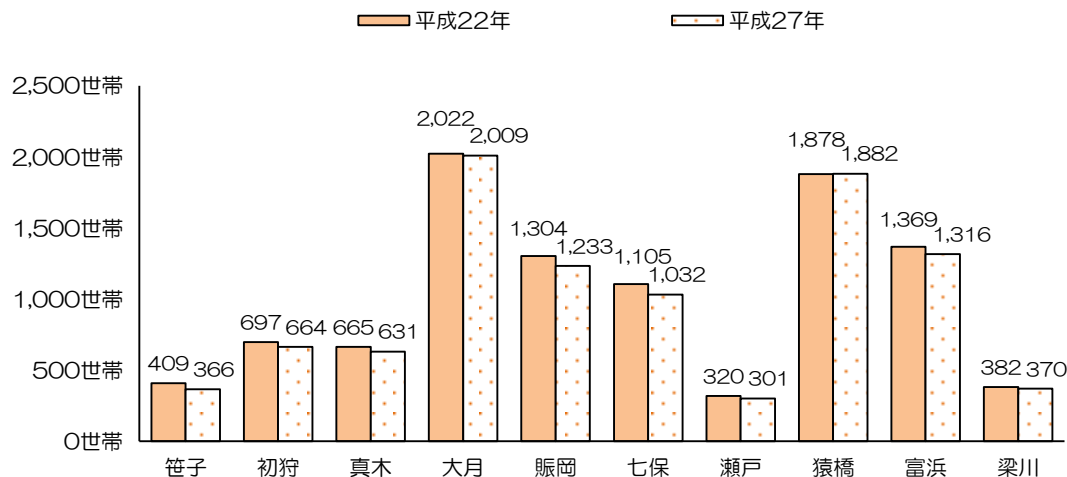
世帯数を地区別にみると、「大月地区」が「猿橋地区」を上回り最も多くなっています。このことから、「大月地区」は「猿橋地区」に比べ、ひとり暮らし世帯や核家族世帯が多いことが推測されます。

■地区別人口の状況



資料：国勢調査

■地区別世帯数の状況



資料：国勢調査

⑤ 高齢者単身世帯

高齢者の世帯状況についてみると、高齢化率の上昇に伴って高齢単身者は増加しています。全国・山梨県に比べて高齢単身者の割合は低いものの、平成27年には13.4%、約7.5人に1人が単身高齢者となっています。

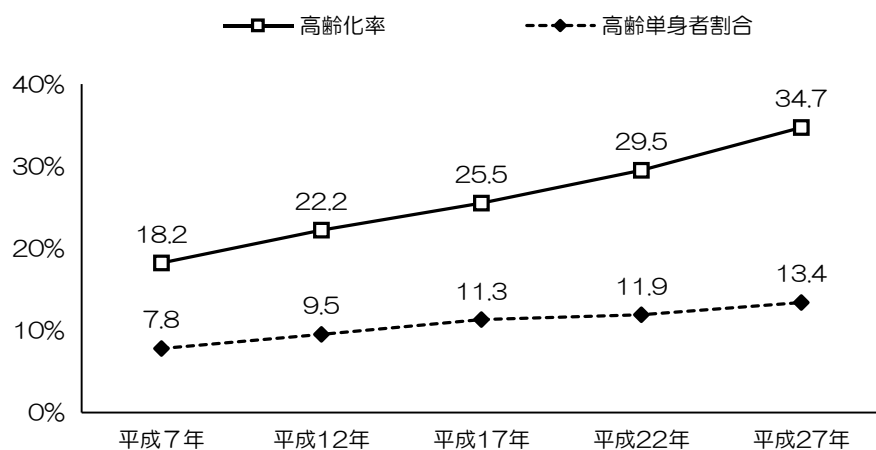
■ 高齢単身者の推移

単位（人，世帯，％）

		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
大月市	高齢者総数	6,416	7,341	7,881	8,293	8,827
	高齢単身者	500	700	892	983	1,180
	単身者割合	7.8	9.5	11.3	11.9	13.4
山梨県	高齢者総数	151,148	173,580	193,580	211,581	234,544
	高齢単身者	14,657	19,056	24,122	29,318	37,359
	単身者割合	9.7	11.0	12.5	13.9	15.9
全国	高齢者総数	18,260,822	22,005,152	25,672,005	29,245,685	33,465,441
	高齢単身者	2,202,160	3,032,140	3,864,778	4,790,768	5,927,686
	単身者割合	12.1	13.8	15.1	16.4	17.7

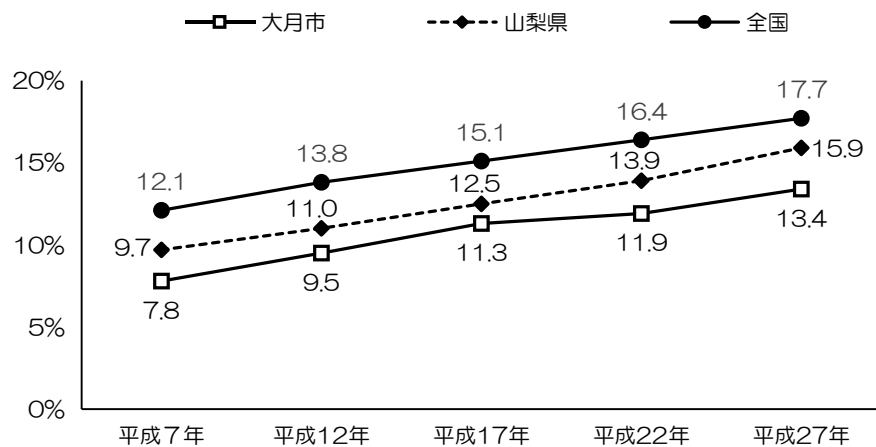
資料：国勢調査

■高齢化率と高齢単身者割合の推移



資料：国勢調査

■高齢単身者の割合の推移（山梨県・全国との比較）



資料：国勢調査

(2) 出生と死亡

① 出生数・出生率

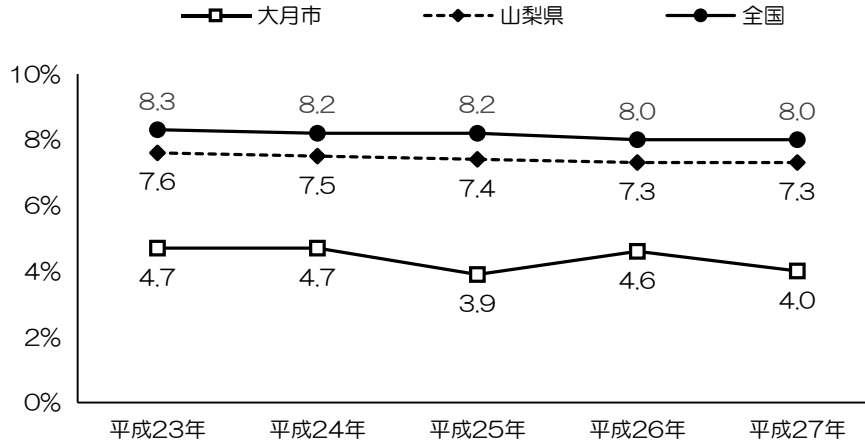
出生数は増減があるものの、減少傾向にあります。出生率は全国、山梨県ともに7～8%台であるのに対し、本市では4%前後と低く推移しています。

■ 出生数と出生率の推移

		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
大月市	出生数	129人	129人	103人	120人	100人
大月市	出生率	4.7%	4.7%	3.9%	4.6%	4.0%
甲府市		7.9%	7.7%	7.9%	7.5%	7.7%
都留市		6.9%	6.7%	6.4%	7.1%	6.6%
山梨県		7.6%	7.5%	7.4%	7.3%	7.3%
全国		8.3%	8.2%	8.2%	8.0%	8.0%

資料：人口動態統計

■ 出生率の推移（山梨県・全国との比較）



資料：人口動態統計

②低出生体重児の状況

2,500g未満の低出生体重児の出生率は増減を繰り返していて、平成27年には12.0%、8.3人に1人が低出生体重児となっています。

低出生体重児の出生率は、山梨県をおおむね上回って推移しています。

■低出生体重児の出生数・出生率の推移

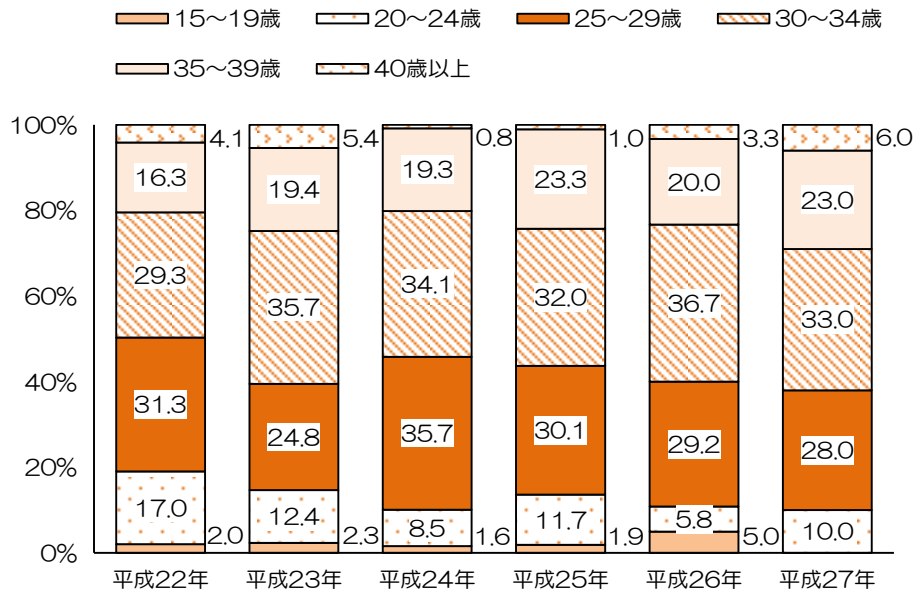
		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
大月市	出生数	17人	14人	20人	10人	15人	12人
大月市	出生率	11.6%	10.9%	15.5%	9.7%	12.5%	12.0%
山梨県	出生率	11.2%	9.8%	10.8%	10.4%	10.3%	10.4%

資料：人口動態統計

③出生時の母の年齢別割合

平成22年からの推移をみると、母の年齢が35歳以上の割合は増減を繰り返しています。また、割合は低いものの20歳未満の若年の母もみられていますが、平成27年はみられませんでした。

■出生時の母の年齢別割合の推移



資料：平成23年までは山梨の母子保健統計
平成24年からは人口動態統計

④死亡数・死亡率

過去5年間の死亡数と死亡率は、増減を繰り返しています。

死亡率は全国・山梨県と比較して高く、山梨県を1～3ポイント上回る値で推移しています。

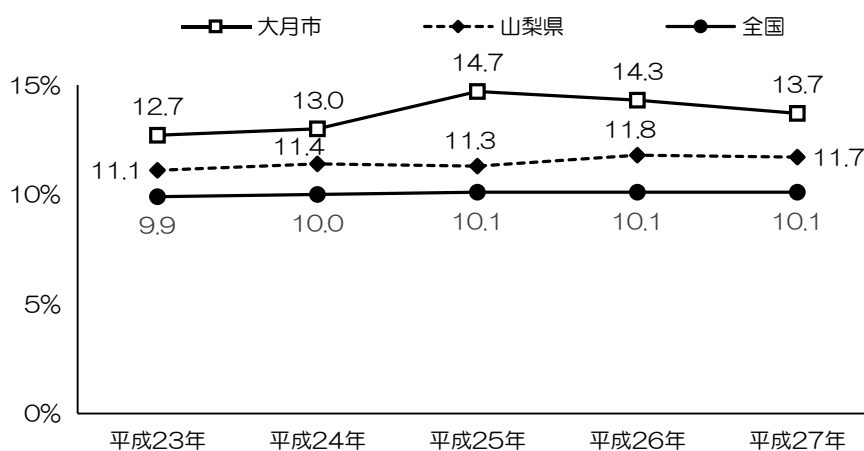
また、近隣市と比較しても高い状況です。

■死亡数と死亡率の推移

		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
大月市	死亡数	351人	354人	389人	370人	346人
大月市	死亡率	12.7%	13.0%	14.7%	14.3%	13.7%
甲府市		10.3%	10.9%	10.7%	11.3%	11.8%
都留市		10.3%	10.8%	10.5%	11.1%	10.8%
山梨県		11.1%	11.4%	11.3%	11.8%	11.7%
全国		9.9%	10.0%	10.1%	10.1%	10.1%

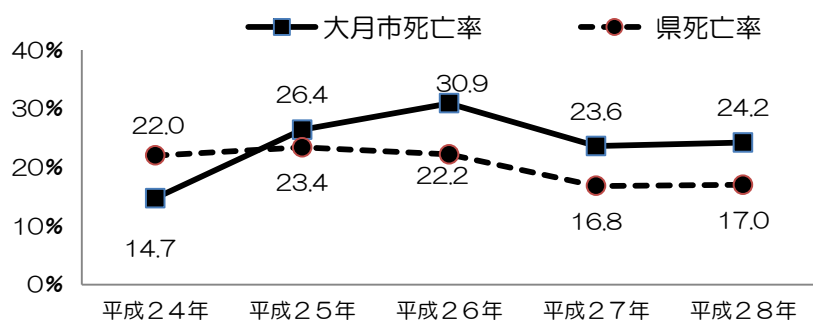
資料：人口動態統計

■死亡率の推移（山梨県・全国との比較）



資料：人口動態統計

■自殺者数の推移（山梨県との比較）



資料：人口動態統計

⑤死産、乳児死亡、周産期死亡

死産、乳児死亡、周産期死亡の状況は、人数については顕著な増減はみられません。平成27年は人工死産が6人、乳児死亡が1人となっています。

■死産、乳児死亡、周産期死亡の発生率の推移

単位（人，人口千対）

		大月市						山梨県	全国	
		平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	5年 平均	平成 27年	平成 27年	
死 産	総死産	人	2	5	5	1	6	3.8	137	23,524
		率	15.3	37.3	46.3	8.3	56.6	32.8	22.4	22.9
	自然死産	人	-	2	1	-	-	0.6	58	10,905
		率	-	14.9	9.3	-	-	4.8	9.5	10.6
	人工死産	人	2	3	4	1	6	3.2	79	12,619
		率	15.3	22.4	37.0	8.3	56.6	27.9	12.9	12.3
乳 児 死 亡	乳児死亡	人	-	-	-	-	1	0.2	12	2,080
		率	-	-	-	-	10.0	2.0	2.0	2.1
	新生児死亡	人	-	-	-	-	-	-	4	952
		率	-	-	-	-	-	-	0.7	0.9
周産期死亡	人	-	-	-	-	-	-	17	3,750	
	率	-	-	-	-	-	-	2.8	3.7	

資料：人口動態統計

(3) 母子保健

①妊婦健診の受診状況

受診状況は、前期に比べ後期が低くなっています。後期の受診率が低い理由としては、40週に至らない出産があるためだと思われます。

また、このとり支援事業申請者は、平成28年度には、13件となっており、増加傾向にあります。

母子手帳交付者は平成27年度までは100人を超えていましたが年々減少傾向にあり、平成28年度は93人となっています。

■妊婦一般健康診査実施状況の推移

単位（人，％）

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	交付数	受診率	交付数	受診率	交付数	受診率	交付数	受診率	交付数	受診率
1回目	115	101.7	122	95.9	111	95.4	109	97.2	95	100.0
2回目	116	95.7	122	93.4	113	86.7	108	99.1	96	95.8
3回目	118	94.9	124	95.1	114	88.5	112	93.7	96	89.5
4回目	119	91.6	124	89.5	114	88.5	112	94.6	96	86.4
5回目	120	94.1	125	83.2	114	88.5	113	92.0	97	92.7
6回目	121	87.6	126	81.7	118	89.8	113	91.1	98	93.8
7回目	121	89.2	127	81.8	126	84.9	113	88.4	98	95.9
8回目	123	91.8	131	76.3	126	84.9	113	90.2	99	91.9
9回目	124	90.3	131	72.5	130	85.3	115	90.4	101	85.1
10回目	124	83.8	131	73.2	132	78.7	116	91.3	102	85.2
11回目	125	79.2	131	71.7	132	71.9	117	82.1	103	77.6
12回目	125	64.8	131	63.3	132	59.8	117	67.5	103	69.9
13回目	125	42.4	131	48.8	132	47.7	117	45.2	103	55.3
14回目	125	19.2	131	34.3	131	33.5	118	22.0	103	35.9

資料：母子保健統計

■このとり支援事業（不妊治療）の利用状況

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
申請者数	10件	6件	3件	5件 (1件旧制度含)	13件

資料：主要な施策の成果説明書

※平成27年度から、保険適用外の不妊治療費を含めた助成制度に改正しました。

■母子健康手帳の交付状況の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
交付者数	115人	120人 (双胎2人)	111人 (双胎1人)	108人 (双胎2人)	93人

資料：主要な施策の成果説明書

②健康教育の実施状況

教室等への参加率は、ママパパ学級（妊娠期）、ママパパ学級クラス会（出産後）は、減少傾向にあります。育児教室、もぐもぐ教室（離乳食教室）においては、増加傾向にあります。

育児支援・虐待予防のための事業でもあることから、参加者を増やしていく必要があります。

ビッグムーンベイビー（乳児・幼児）は、子育て支援センターにおいて同様の事業が行われていることから、平成26年度をもって終了としています。

産後ママの安心相談室は、子育てを始めたばかりの母親に対して、自分自身や子どもについての心配事を気軽に相談できる場を提供し、育児不安の解消・軽減を図ることを目的に市独自の事業として、平成27年11月より開始しました。

産後ケア事業（宿泊型）は、平成28年1月より、山梨県と県内市町村が広域連合体として、開始しました。

■健康教育実施状況の推移

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
ママパパ学級 （妊娠期）	対象者数	121人	119人	111人	117人	90人
	実人数	42人	41人	52人	38人	21人
	延べ人数	115人	114人	164人	122人	100人
	参加率	34.7%	34.5%	46.8%	32.5%	23.3%
ママパパ学級 クラス会 （出産後）	対象者数	64人	49人	60人	33人	19人
	実人数	39人	21人	33人	19人	10人
	延べ人数	39人	21人	33人	19人	10人
	参加率	60.9%	42.9%	55.0%	57.6%	52.6%
育児教室	対象者数	119人	109人	102人	104人	99人
	実人数	81人	66人	63人	67人	63人
	参加率	68.1%	60.6%	61.8%	64.4%	63.6%
もぐもぐ教室 （離乳食教室）	対象者数	139人	105人	123人	102人	96人
	実人数	61人	55人	59人	55人	53人
	参加率	43.9%	52.4%	48.0%	53.9%	55.2%

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
ビックムーン ベイビー（乳児）	実人数	41人	29人	39人	-	-
	延べ人数	152人	92人	135人	-	-
ビックムーン ベイビー（幼児）	実人数	23人	18人	34人	-	-
	延べ人数	66人	83人	66人	-	-
産後ママの安心相 談室	回数	-	-	-	10回	24回
	延べ人数	-	-	-	14人	63人
産後ケア 事業（宿泊型）	実人数	-	-	-	-	1人
	延べ人数	-	-	-	-	1人

資料：主要な施策の成果説明書

③健康相談の実施状況

妊産婦、乳幼児、思春期の健康相談の件数は増減を繰り返しています。中でも産婦、乳児の相談件数が多い傾向です。

■健康相談実施状況の推移

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
妊婦	実人数	132人	134人	15人	121人	94人
	延べ件数	132件	140件	125件	121件	95件
	電話相談延べ件数	7件	16件	22件	10件	1件
産婦	実人数	143人	143人	119人	116人	127人
	延べ件数	149件	143件	127件	137件	172件
	電話相談延べ件数	13件	26件	8件	3件	0件
乳児	実人数	134人	161人	157人	151人	152人
	延べ件数	143件	163件	158件	169件	192件
	電話相談延べ件数	41件	34件	21件	22件	14件
幼児	実人数	104人	144人	99人	117人	63人
	延べ件数	128件	165件	116件	137件	70件
	電話相談延べ件数	110件	185件	143件	158件	100件
思春期	実人数	44人	15人	6人	4人	4人
	延べ件数	46件	15件	6件	6件	4件
	電話相談延べ件数	1件	17件	3件	2件	0件
その他	実人数	22人	49人	33人	27人	27人
	延べ件数	30件	49件	33件	31件	29件
	電話相談延べ件数	27件	199件	27件	27件	37件
合計	実人数	579人	646人	429人	536人	467人
	延べ件数	628件	675件	565件	601件	562件
	電話相談延べ件数	199件	477件	224件	222件	152件

資料：母子保健統計

④訪問指導の実施状況

出生数の減少に伴い、訪問指導実施実人員は減少傾向にあります。平成28年度では207人となっています。

■訪問指導実施状況の推移

		平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
妊婦	実人員	0人	1人	3人	2人	1人
	延べ件数	0件	1件	6件	2件	2件
産婦	実人員	126人	108人	114人	104人	101人
	延べ件数	132件	113件	122件	118件	108件
新生児 (未熟児を除く)	実人員	30人	33人	51人	57人	46人
	延べ件数	30件	33件	51件	57件	46件
未熟児	実人員	5人	0人	0人	1人	0人
	延べ件数	5件	0件	0件	1件	0件
乳児 (新生児・未熟児除く)	実人員	91人	75人	67人	50人	55人
	延べ件数	97件	80件	70件	60件	57件
幼児	実人員	6人	5人	4人	3人	3人
	延べ件数	8件	6件	4件	4件	3件
その他	実人員	6人	2人	2人	2人	1人
	延べ件数	8件	3件	2件	3件	2件
合計	実人員	264人	224人	241人	219人	207人
	延べ件数	280件	236件	255件	245件	218件

資料：母子保健統計

⑤乳幼児健診の実施状況

乳幼児の健診は、4か月、9か月、1歳6か月、3歳時に実施しています。対象児数は減少傾向にあります。

受診率については、4か月児健診と9か月児健診では95%以上、1歳6か月児健診では96%以上、3歳児健診では93%以上と、いずれの健診においても9割以上の受診率を維持しています。

■乳児健診（4か月児健診・9か月児健診）受診児数の推移

		平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
4か月児健診	対象児数	135人	102人	122人	110人	94人
	受診児数	129人	101人	121人	108人	92人
	受診率	95.6%	99.0%	99.2%	98.2%	97.9%
9か月児健診	対象児数	155人	106人	111人	120人	110人
	受診児数	152人	101人	108人	116人	107人
	受診率	98.1%	95.3%	97.3%	96.7%	97.3%

資料：母子保健統計

■1歳6か月児健診受診児数の推移

		平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
1歳6か月児 健診	対象児数	130人	137人	115人	120人	111人
	受診児数	126人	134人	113人	118人	111人
	受診率	96.9%	97.8%	98.3%	98.3%	100.0%

資料：母子保健統計

■3歳児健診の受診児数の推移

		平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
3歳児健診	対象児数	132人	140人	142人	129人	109人
	受診児数	124人	138人	137人	127人	106人
	受診率	93.9%	98.6%	96.5%	98.4%	97.2%

資料：母子保健統計

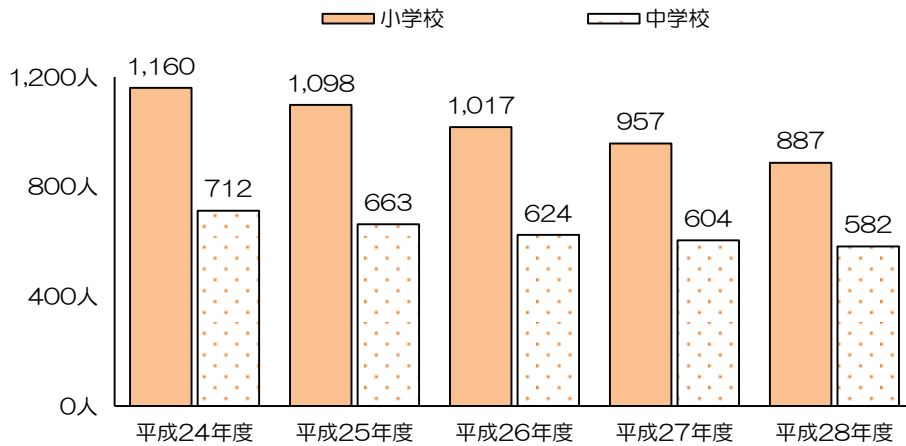
(4) 学校保健

①児童・生徒数

小学校の児童数は、学校により増減幅はあるものの減少しており、平成28年度の児童数は平成24年度の児童数の76%（273人減少）となっています。

同様に中学校の生徒数も減少しており、平成28年度の生徒数は平成24年度の生徒数の82%（130人減少）です。

■小学校児童数・中学校生徒数の推移



資料：平成27年度までは大月市養護教員研究会（定期健康診断結果）

平成28年度は北都留養護教員研究会大月支会（定期健康診断結果）

②疾病異常

平成23年度と平成28年度の疾病異常の罹患状況とみると、小学校では、喘息、耳疾患、口腔咽頭疾患異常の罹患率が増加しています。

中学校では、アトピー性皮膚炎、喘息、アレルギー性鼻炎、口腔咽頭疾患異常の罹患率が増加しています。

肥満度からみた肥満傾向児の割合は小学生、中学生ともに増減を繰り返しており、平成28年度以降は中学生の方が高く推移しています。

■疾病異常の罹患状況

単位（人，％）

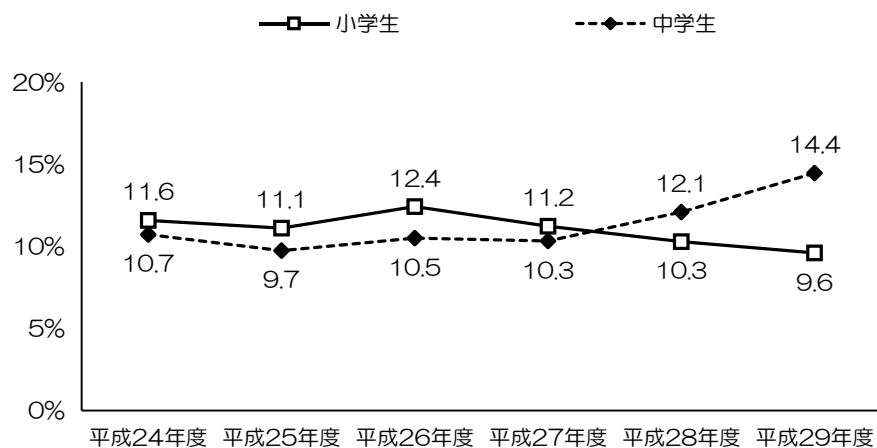
		小学校				中学校			
		平成23年度		平成28年度		平成23年度		平成28年度	
		人	率	人	率	人	率	人	率
内科	肥満傾向	41	3.4	14	1.6	17	2.2	17	2.9
	脊柱異常	2	0.2	1	0.1	1	0.1	1	0.2
	胸郭異常	2	0.2	2	0.2	0	0.0	0	0.0
	アトピー性皮膚炎	85	7.0	9	1.0	5	0.6	34	5.9
	心臓の疾患・異常	6	0.5	1	0.1	2	0.3	2	0.3
	喘息	64	5.3	67	7.6	3	0.4	13	2.2
	検査者合計	1,208	-	882	-	773	-	580	-
耳鼻科	耳疾患	38	6.6	86	9.7	10	2.0	10	1.8
	鼻炎・副鼻腔炎	225	39.0	291	32.9	143	28.9	123	21.7
	アレルギー性鼻炎	191	33.1	288	32.5	142	28.7	200	35.3
	口腔咽頭疾患異常	13	2.3	43	4.9	0	0.0	3	0.5
	検査者合計	577	-	885	-	495	-	567	-

資料：平成23年度は大月市養護教員研究会（定期健康診断結果）

平成28年度は北都留養護教員研究会大月支会（定期健康診断結果）

※耳鼻科は、平成23年度は小学校1・3・5年生、中学校は1・3年生が対象、平成27年度より全学年対象となる

■肥満度からみた肥満傾向児の割合の推移



資料：平成27年度までは大月市養護教員研究会（定期健康診断結果）
 平成28年度からは北都留養護教員研究会大月支会（定期健康診断結果）
 ※軽度・中度・高度肥満児を合わせて割合を示している

(5) 健康診査

① 基本健康診査

若年健診の受診者数は少ない状況です。

後期高齢者の受診者数は増加傾向にあり、平成28年度では548人となっています。

特定健康診査の受診者数は増減を繰り返しており、男性に比べ女性の方が多い状況です。
受診率は山梨県平均に比べ約12%程度下回っています。

■ 基本健康診査の受診者数の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
対象者	4,629人	4,480人	4,305人	4,375人	4,369人
若年健診	96人	96人	82人	80人	73人
後期高齢者	431人	502人	501人	534人	548人

資料：主要な施策の成果説明書

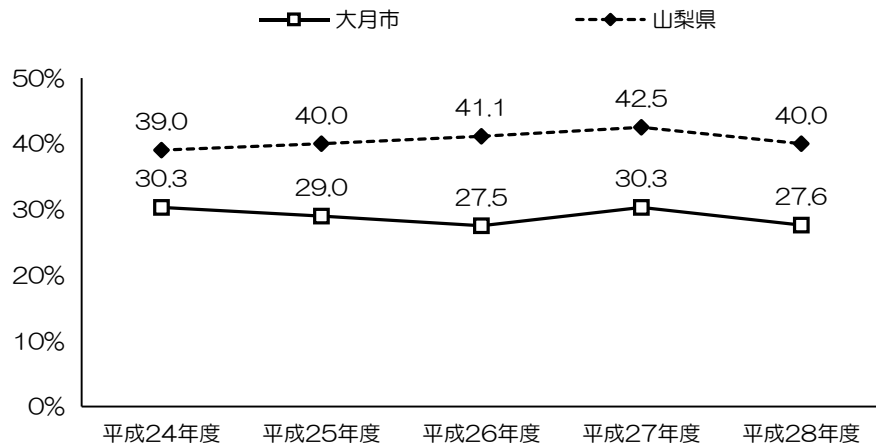
※平成24年度から後期高齢者の対象者は施設入所者（障害含む）、介護認定4・5、長期入院者を除く

■ 特定健康診査の対象者数・受診者数の推移

		平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
特定健康診査 対象者数	男	2,735人	2,674人	2,674人	2,639人	2,511人
	女	2,676人	2,600人	2,600人	2,546人	2,400人
	計	5,411人	5,274人	5,274人	5,185人	4,911人
特定健康診査 受診者数	男	739人	682人	628人	681人	694人
	女	902人	867人	824人	890人	853人
	計	1,641人	1,549人	1,452人	1,571人	1,547人

資料：特定健康診査等の実施状況に関する結果の報告（法定報告）

■ 特定健康診査受診率の推移（山梨県との比較）



資料：特定健康診査等の実施状況に関する結果の報告（法定報告）

② 特定保健指導

動機付け支援、積極的支援ともに女性に比べ男性の方が多く状況です。実施率はいずれの年も低い状況ですが、平成28年度は動機付け支援が23.8%、積極的支援が9.8%と、動機付け支援は27年度より4.8%増加しています。

■ 特定保健指導の動機付け支援・積極的支援の実施者数・実施率の推移

			平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
動機付け支援	男	対象者	85人	74人	95人	83人	92人
		実施者	7人	15人	20人	12人	22人
	女	対象者	61人	50人	52人	48人	59人
		実施者	5人	7人	8人	5人	14人
	実施率		8.2%	17.7%	13.0%	19.0%	23.8%
積極的支援	男	対象者	29人	26人	34人	21人	29人
		実施者	0人	1人	5人	0人	3人
	女	対象者	11人	7人	12人	4人	12人
		実施者	0人	0人	1人	0人	1人
	実施率		0.0%	3.0%	0.0%	13.0%	9.8%

資料：特定健康診査等の実施状況に関する結果の報告（法定報告）

③がん検診

がん検診の受診率は、全体的に低い状態で推移しています。山梨県と比較して、すべてのがん検診において県の受診率をおおむね下回っています。

子宮がん検診、乳がん検診は受診率が20%未満で推移しています。

胃がん検診は平成25年度から胃カメラでの検診を導入したため、バリウムの受診率は減少傾向です。胃カメラの受診率は年々増加しています。

■各種がん検診受診率の推移（山梨県との比較）

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
胃がん検診 (バリウム)	大月市	12.0%	7.8%	7.3%	6.5%
	山梨県	16.1%	16.1%	14.3%	13.3%
胃がん検診 (カメラ)	大月市	-	8.5%	8.7%	13.1%
	山梨県	-	-	-	-
肺がん検診	大月市	22.5%	23.2%	23.2%	26.8%
	山梨県	40.1%	41.0%	36.2%	34.7%
子宮がん検診	大月市	17.8%	14.2%	19.1%	18.9%
	山梨県	22.5%	22.0%	19.5%	18.7%
肝がん検診	大月市	23.8%	25.2%	24.5%	25.4%
	山梨県	36.9%	36.9%	34.5%	33.0%
大腸がん検診	大月市	23.3%	24.7%	24.4%	26.3%
	山梨県	32.9%	34.2%	30.6%	29.9%
乳がん検診	大月市	12.7%	18.7%	17.4%	16.3%
	山梨県	28.9%	34.2%	33.6%	30.0%

資料：山梨県生活習慣病検診管理指導協議会における課題検討結果報告
※子宮がん検診：20歳以上、そのほかのがん検診：40歳以上

④肝炎ウイルス検診

肝炎ウイルス検診の受診者数は増減を繰り返しており、平成28年度では427人となっています。

■肝炎ウイルス検診の受診者数の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
受診者	346人	216人	249人	457人	427人

資料：主要な政策の成果説明書

⑤すこやか大月市民健診事業（人間ドック）

すこやか大月市民健診受診者数は増減があるものの、減少傾向にあります。受診率は20%を下回っている状況です。

■すこやか大月市民健診受診者数の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
対象者	797人	884人	826人	935人	829人
受診者	150人	150人	103人	117人	99人
受診率	18.8%	17.0%	12.5%	12.5%	11.9%

資料：主要な施策の成果説明書

(6) 疾病状況等

① 国民健康保険被保険者数の推移

国民健康保険の被保険者数は、人口の減少に伴い減少しており、加入率も減少しています。

■ 国民健康保険被保険者数の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
被保険者数	7,473人	7,260人	6,958人	6,378人
加入率	27.9%	27.7%	27.1%	25.3%

資料：被保険者台帳（各年度6月1日現在）

② 国民健康保険 疾病統計

疾病大分類別に、入院の件数・点数をみると、件数・点数ともに「精神及び行動の障害」が最も高く、入院外の件数・点数をみると、件数では「循環器系の疾患」、点数では「腎尿路生殖器系の疾患」が最も高くなっています。

■ 疾病大分類別、件数、点数の上位3分類の状況

単位（％）

		1位		2位		3位	
		疾病大分類	率	疾病大分類	率	疾病大分類	率
入院	件数	精神及び行動の障害	28.3	新生物	10.8	循環器系の疾患	10.2
	点数	精神及び行動の障害	24.4	新生物	14.0	循環器系の疾患	13.0
入院外	件数	循環器系の疾患	19.5	筋骨格系及び結合組織の疾患	13.3	内分泌、栄養及び代謝疾患	13.1
	点数	腎尿路生殖器系の疾患	17.0	循環器系の疾患	13.2	新生物	12.1
総計	件数	循環器系の疾患	19.2	筋骨格系及び結合組織の疾患	13.1	内分泌、栄養及び代謝疾患	12.6
	点数	腎尿路生殖器系の疾患	10.5	精神及び行動の障害	9.3	内分泌、栄養及び代謝疾患	5.0

資料：国保データベース 平成29年7月

③主要死因別死亡数

主要死因別死亡数の上位3項目は、平成23年度以降は第1位「悪性新生物」、平成27年度は第2位「心疾患（高血圧を除く）」、第3位「肺炎」と続きます。

■主要死因別死亡数の推移（上位3位）

		第1位	第2位	第3位
平成23年度	項目	悪性新生物	心疾患（高血圧を除く）	肺炎
	死亡数	94人	58人	42人
	死亡率	26.8%	16.5%	12.0%
平成24年度	項目	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患（高血圧を除く）
	死亡数	86人	51人	50人
	死亡率	24.3%	14.4%	14.1%
平成25年度	項目	悪性新生物	心疾患（高血圧を除く）	肺炎
	死亡数	95人	56人	41人
	死亡率	24.4%	14.4%	10.5%
平成26年度	項目	悪性新生物	心疾患（高血圧を除く）	脳血管疾患
	死亡数	91人	65人	38人
	死亡率	24.6%	17.6%	10.3%
平成27年度	項目	悪性新生物	心疾患（高血圧を除く）	肺炎
	死亡数	76人	54人	42人
	死亡率	22.0%	15.6%	12.1%

資料：人口動態統計

④結核患者数

結核患者数はほぼ横ばいにあります。また、平成27年度の新登録者は3人となっています。

■結核患者数の推移

	患者数	活動性結核 （感染性）	活動性結核 （非感染性）	活動性結核 （肺外）	不活動性	新登録者
平成25年度	5人	1人	1人	0人	0人	3人
平成26年度	5人	2人	0人	2人	2人	1人
平成27年度	6人	1人	0人	1人	2人	3人

資料：山梨県保健福祉部（各年末現在）

(7) 予防接種

① 予防接種実施状況の推移

- ❖ ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん予防については、平成24年度は「子宮頸がん予防ワクチン等予防接種緊急促進事業」にて助成しました。
- ❖ 生ポリオは平成24年9月からの不活化ポリオ開始により終了となりました。
- ❖ MR3期・4期は、平成24年度で経過措置終了となりました。
- ❖ 水痘は、平成26年10月から定期接種化となりました。
- ❖ 高齢者肺炎球菌は、平成26年度10月から定期接種化となり、5年間は経過措置期間となりました。
- ❖ 任意接種として、子どものインフルエンザの費用助成を平成26年度から開始しました。
- ❖ B型肝炎は平成28年10月から定期接種化となりました。

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
ヒブ	1回目	172人	164人	123人	102人	99人
	2回目	126人	108人	111人	105人	96人
	3回目	108人	106人	112人	108人	99人
	追加	58人	132人	103人	107人	106人
小児用肺炎球菌	1回目	170人	169人	128人	103人	101人
	2回目	148人	116人	117人	105人	97人
	3回目	108人	101人	112人	113人	100人
	追加	77人	111人	94人	112人	100人
B型肝炎	1回目	-	-	-	-	68人
	2回目	-	-	-	-	60人
	3回目	-	-	-	-	20人
生ポリオ	1回目	24人	-	-	-	-
	2回目	43人	-	-	-	-
不活化ポリオ	初回1回目	199人	41人	15人	5人	8人
	初回2回目	177人	61人	17人	5人	11人
	初回3回目	126人	51人	10人	3人	7人
	初回追加	2人	120人	28人	4人	14人
三種混合	1期1回目	107人	4人	0人	0人	-
	1期2回目	116人	11人	0人	0人	-
	1期3回目	120人	18人	2人	0人	-
	1期追加	142人	138人	38人	1人	-

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
四種混合	1期1回目	26人	104人	119人	102人	101人
	1期2回目	17人	102人	114人	108人	104人
	1期3回目	5人	99人	117人	112人	110人
	1期追加	0人	3人	92人	108人	119人
DT（三種混合第2期）		165人	156人	149人	127人	118人
BCG		129人	77人	123人	111人	110人
MRワクチン (麻しん風しん 混合ワクチン)	1期	134人	124人	109人	111人	113人
	2期	145人	122人	117人	121人	123人
	3期	194人	-	-	-	-
	4期	277人	-	-	-	-
麻しん (単抗原)	1期	1人	0人	0人	0人	1人
	2期	0人	0人	0人	0人	0人
風しん (単抗原)	1期	0人	0人	0人	0人	0人
	2期	0人	0人	0人	0人	0人
水痘	1回目	-	-	200人	113人	108人
	2回目	-	-	61人	109人	92人
日本脳炎	初回1回目	282人	228人	149人	125人	115人
	初回2回目	266人	214人	141人	123人	114人
	初回追加	249人	268人	214人	146人	134人
	2期	15人	130人	153人	121人	127人
子宮頸がん 予防	1回目	19人	17人	1人	0人	0人
	2回目	23人	10人	1人	0人	0人
	3回目	57人	14人	2人	1人	0人
高齢者インフルエンザ		4,394人	4,505人	4,546人	4,501人	4,541人
高齢者肺炎球菌ワクチン		-	-	760人	679人	858人
子どものインフルエンザ		-	-	1,236人	1,122人	1,135人

資料：主要な施策の成果説明書

②乳幼児予防接種の接種率

平成28年度における乳幼児予防接種の接種率は、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、BCG、MRワクチンで90%以上となっています。

■平成28年度 乳幼児予防接種の実施状況

	対象児	回数	対象児数	被接種者数	接種率
ヒブ	生後2ヶ月～ 60ヶ月	1回目	104人	99人	95.2%
		2回目	104人	96人	92.3%
		3回目	104人	99人	95.2%
		追加	104人	106人	101.9%
小児用 肺炎球菌	生後2ヶ月～ 60ヶ月	1回目	104人	101人	97.1%
		2回目	104人	97人	93.3%
		3回目	104人	100人	96.2%
		追加	104人	109人	104.8%
B型肝炎	生後12ヶ月まで	1回目	104人	68人	65.4%
		2回目	104人	60人	57.7%
		3回目	104人	20人	19.2%
不活化ポリオ	生後3ヶ月～ 90ヶ月	1回目	104人	8人	7.7%
		2回目	104人	11人	10.6%
		3回目	104人	7人	6.7%
		追加	104人	14人	13.5%
四種混合	生後3ヶ月～ 90ヶ月	1期1回目	104人	101人	97.1%
		1期2回目	104人	104人	100.0%
		1期3回目	104人	110人	105.8%
		1期追加	104人	119人	114.4%
DT(三種混合第2期)	11歳以上13歳未満	-	161人	118人	73.3%
BCG	生後12ヶ月まで	-	104人	110人	105.8%
MRワクチン	1期：1歳～2歳	-	111人	113人	101.8%
	2期：年長	-	134人	123人	91.8%
水痘	生後12ヶ月～ 36ヶ月	1回目	111人	108人	97.3%
		2回目	111人	92人	82.9%
日本脳炎	3歳～90ヶ月 9歳～13歳未満 特例対象者	初回1回目	110人	115人	104.5%
		初回2回目	110人	114人	103.6%
		初回追加	134人	134人	100.0%
		2期	149人	127人	85.2%

資料：地域保健・健康増進事業報告

■平成27年度 MR（麻しん風しん）ワクチン接種率の状況（山梨県内との比較）

単位（％）

	大月市	甲府市	都留市	上野原市	富士吉田市	南アルプス市	韮崎市	山梨市	甲州市	県平均	県内順位
第1期	91.7	97.9	93.6	90.8	95.6	96.8	97.5	91.7	89.4	94.8	20位
第2期	90.3	91.4	95.4	95.8	94.0	99.0	96.5	91.8	92.9	93.1	21位

資料：厚生労働省 麻しん風しん予防接種の実施状況

(8) 歯の健康

①乳幼児のおし歯のない児の割合

大月市におけるむし歯のない児の割合は、増減はあるものの、いずれの健診においてもほぼ横ばい状態です。また、3歳児健診は60～70%と低い状況で推移していましたが、平成28年度は84.9%と高くなっています。

2歳児歯科健診の受診状況はほぼ横ばいで、平成28年度の受診率は98.3%となっています。

■むし歯のない児の割合の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1歳6か月児健診	96.8%	96.2%	94.6%	98.3%	98.1%
2歳児歯科健診	90.0%	91.4%	91.8%	94.3%	94.9%
3歳児健診	73.3%	73.9%	66.4%	79.5%	84.9%

資料：保健介護課

■2歳児歯科健診受診率の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
回数	12回	12回	12回	11回	12回
対象	140人	149人	112人	114人	120人
受診数	130人	140人	110人	105人	118人
受診率	92.9%	94.0%	98.2%	92.1%	98.3%

資料：主要な施策の成果説明書

②児童・生徒の歯の健康

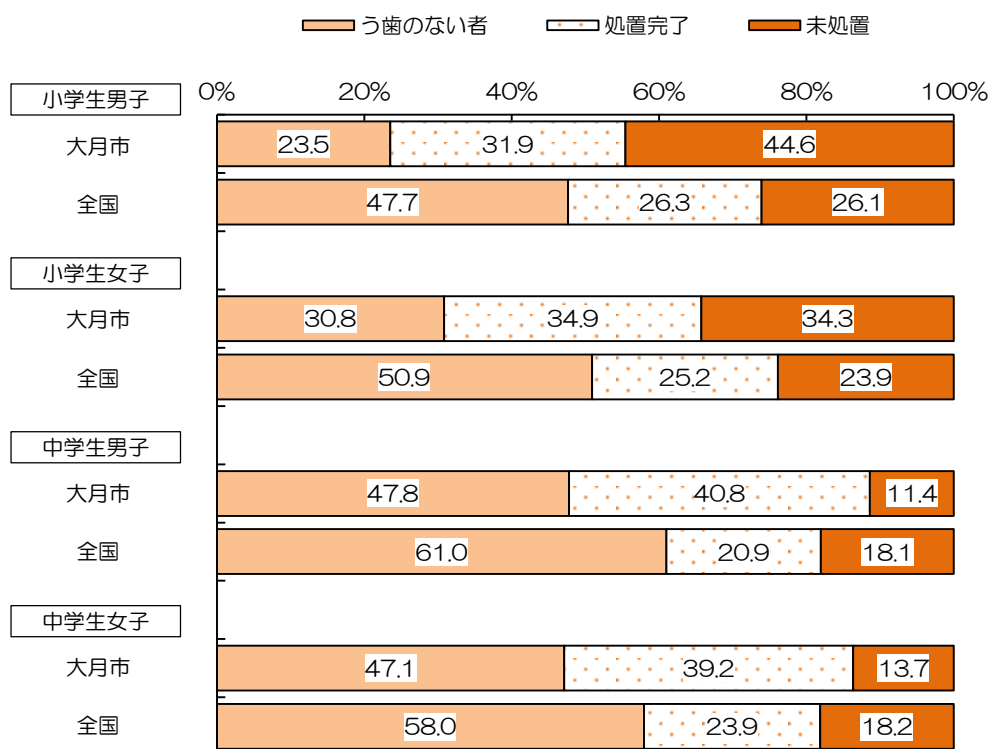
むし歯罹患率は、小学生では71～77%で、中学生では50～64%で推移しています。一方、治療率については、小学生はほぼ横ばいで、中学生は増減を繰り返しています。平成27年度の小学生・中学生のむし歯のない者の割合は低く、小学生は未処置の割合も高い状況です。

■むし歯罹患率の推移

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
罹患率	小学生	77.4%	74.9%	71.2%	72.8%	71.8%
	中学生	63.2%	64.5%	57.6%	52.5%	50.5%
治療率	小学生	38.8%	33.3%	35.7%	33.4%	36.4%
	中学生	44.7%	46.5%	11.8%	40.1%	34.6%

資料：平成27年度までは大月市養護教員研究会（定期健康診断結果）
平成28年度は北都留養護教員研究会大月支会（定期健康診断結果）

■平成27年度歯科健診結果の状況（全国との比較）



資料：大月市養護教員研究会（定期健康診断結果）

③成人の歯の健康

成人歯科検診の受診者数の推移をみると、増減を繰り返しています。

妊婦歯科健診では、対象者数（妊娠届出者）に変動はあるものの、受診率はおおむね増加傾向にあります。

■成人歯科健診の受診状況

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
受診者	257人	252人	266人	262人	209人

資料：主要な施策の成果説明書

■妊婦歯科健診の受診状況

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
対象数	115人	120人	111人	108人	93人
受診者	20人	30人	26人	32人	28人
受診率	17.4%	25.0%	23.4%	29.6%	30.1%

資料：主要な施策の成果説明書

④8020・6024よい歯の表彰の実績

大月市8020・6024よい歯の表彰における表彰者数は、平成28年度に8020部門で1人、6024部門で3人となっています。

■8020・6024よい歯の表彰の実績

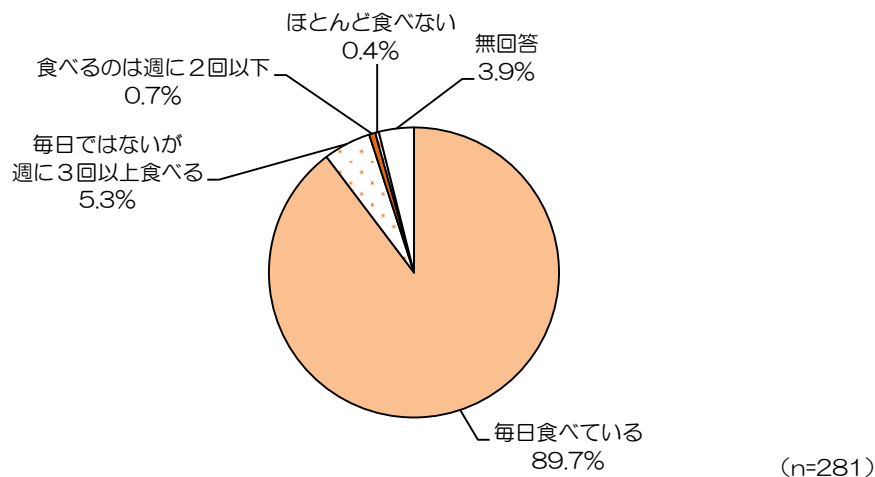
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
8020部門	2人	2人	3人	7人	1人
6024部門	5人	4人	8人	3人	3人

資料：主要な施策の成果説明書

2 アンケート結果からみる大月市の現状と課題

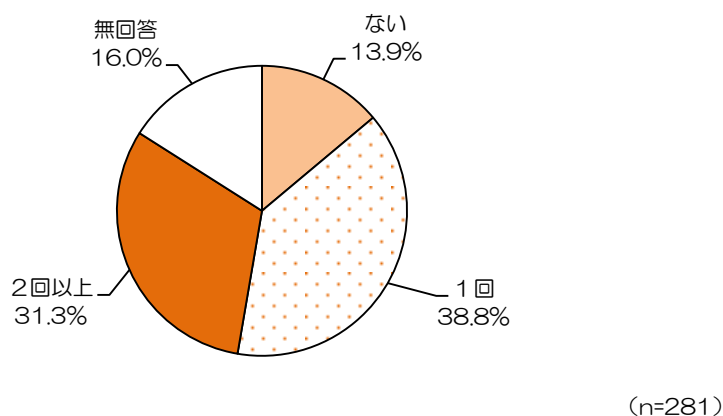
(1) 乳幼児・小学生

①朝食を食べているか



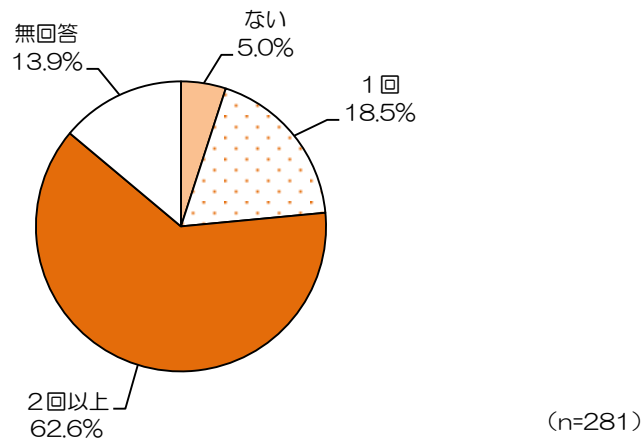
朝食を食べているかにおいては、「毎日食べている」が89.7%、「毎日ではないが週に3回以上食べる」が5.3%、「食べるのは週に2回以下」が0.7%、「ほとんど食べない」が0.4%となっています。

②家族全員がそろって食べる回数



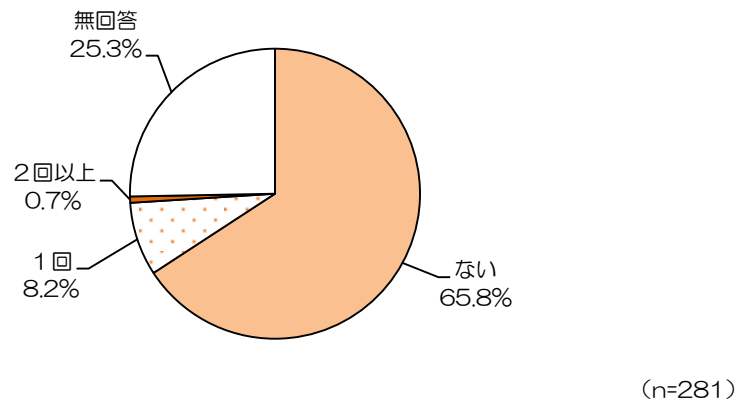
家族全員がそろって食べる回数においては、「ない」が13.9%、「1回」が38.8%、「2回以上」が31.3%となっています。

③ 全員はそろわないが、家族と一緒に食べる回数



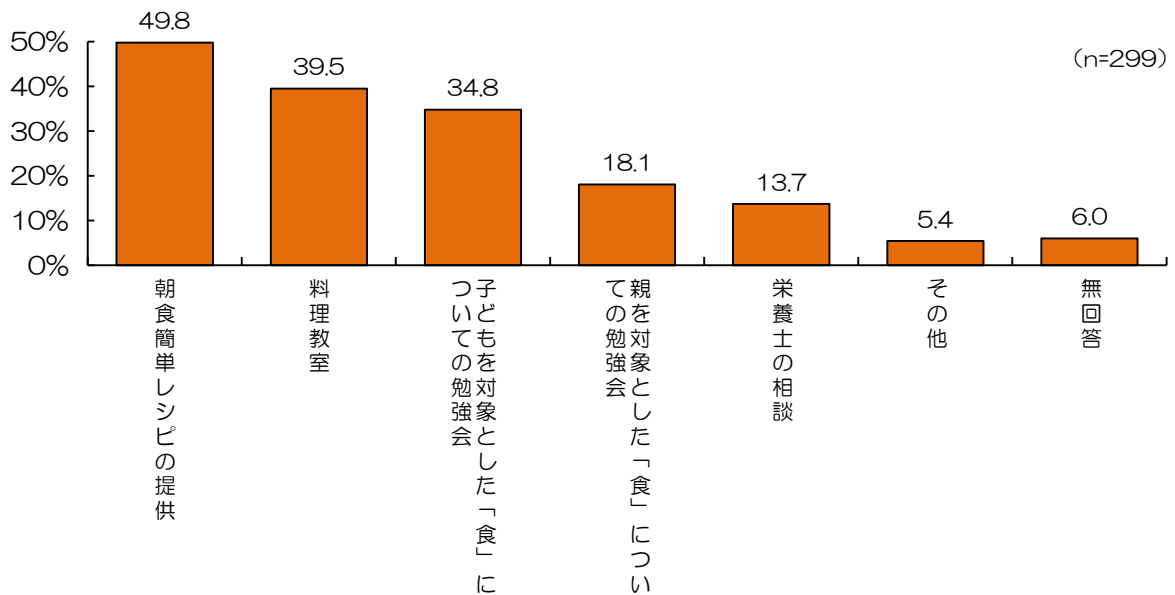
全員はそろわないが、家族と一緒に食べる回数においては、「ない」が5.0%、「1回」が18.5%、「2回以上」が62.6%となっています。

④ 1人で食べる回数



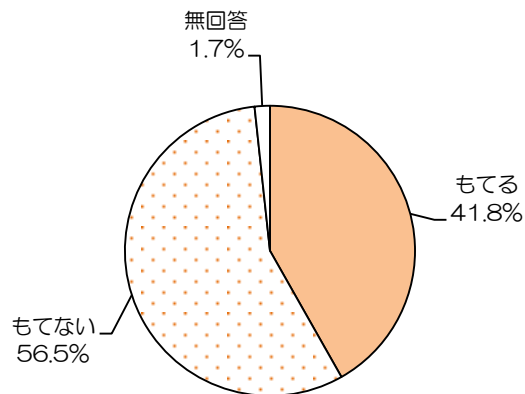
1人で食べる回数においては、「ない」が65.8%、「1回」が8.2%、「2回以上」が0.7%となっています。

⑤ 「食」についてあるといいと思う支援



「食」についてあるといいと思う支援においては、「朝食簡単レシピの提供」が49.8%と最も多く、次いで「料理教室」が39.5%、「子どもを対象とした「食」についての勉強会」が34.8%などとなっています。

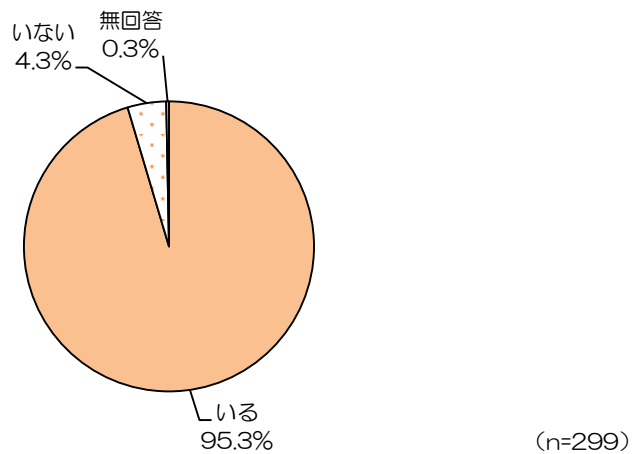
⑥ 子育てに自信がもてるか



(n=299)

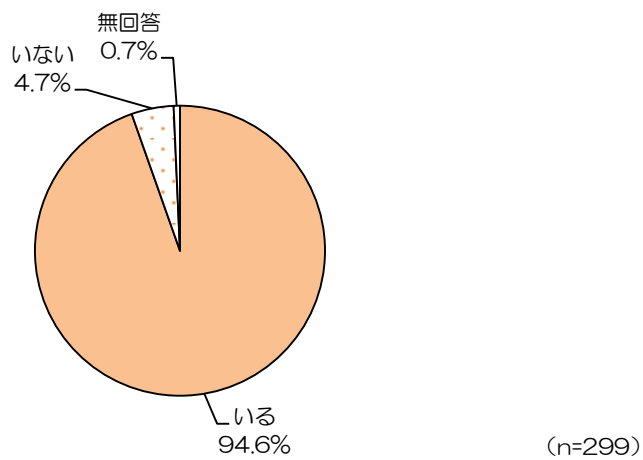
子育てに自信がもてるかにおいては、「もてる」が41.8%、「もてない」が56.5%となっています。

⑦子育てについて相談できる人の有無



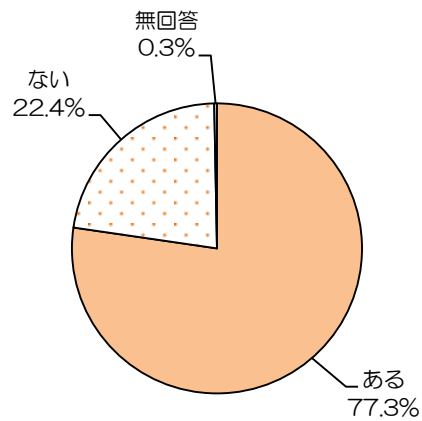
子育てについて相談できる人の有無においては、「いる」が95.3%、「いない」が4.3%となっています。

⑧子育ての協力者の有無



子育ての協力者の有無においては、「いる」が94.6%、「いない」が4.7%となっています。

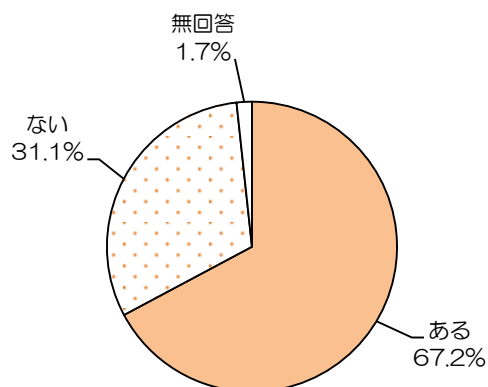
⑨ ゆったりした気分でお子さんと過ごす時間の有無



(n=299)

ゆったりした気分でお子さんと過ごす時間の有無においては、「ある」が77.3%、「ない」が22.4%となっています。

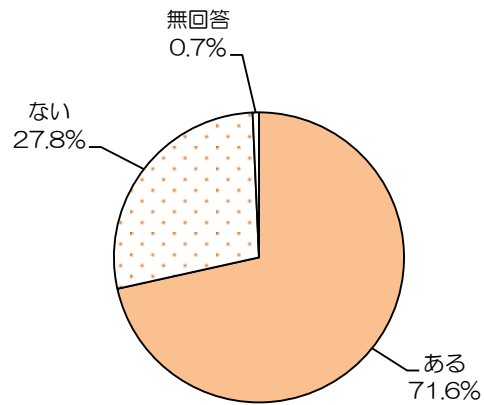
⑩ 安心して子どもを遊ばせられる場所の有無



(n=299)

安心して子どもを遊ばせられる場所の有無においては、「ある」が67.2%、「ない」が31.1%となっています。

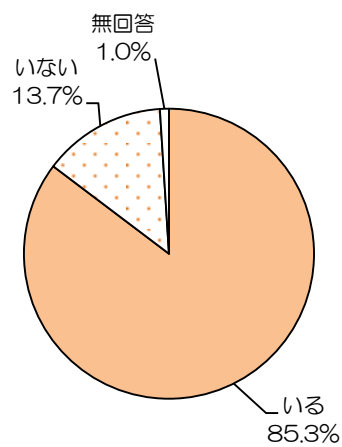
⑪親子同士で遊んだり集える機会の有無



(n=299)

親子同士で遊んだり集える機会の有無においては、「ある」が71.6%、「ない」が27.8%となっています。

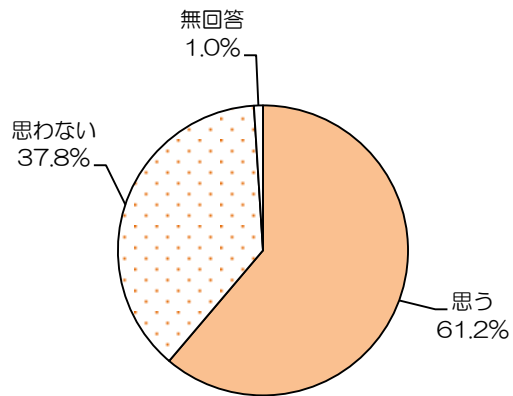
⑫かかりつけ医の有無



(n=299)

かかりつけ医の有無においては、「いる」が85.3%、「いない」が13.7%となっています。

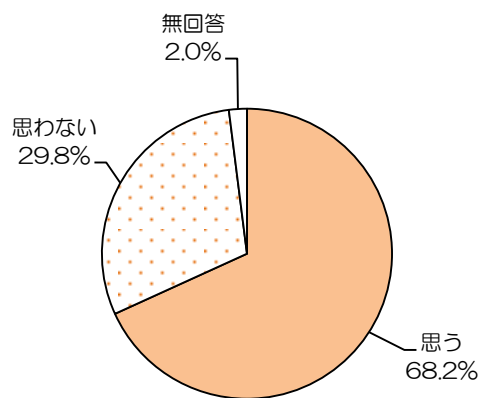
⑬ 必要時、適切な医療が受けられていると思うか



(n=299)

必要時、適切な医療が受けられていると思うかにおいては、「思う」が61.2%、「思わない」が37.8%となっています。

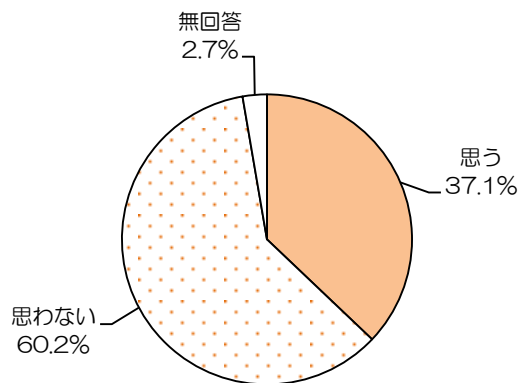
⑭ 子育てに必要な情報が得られていると思うか



(n=299)

子育てに必要な情報が得られていると思うかにおいては、「思う」が68.2%、「思わない」が29.8%となっています。

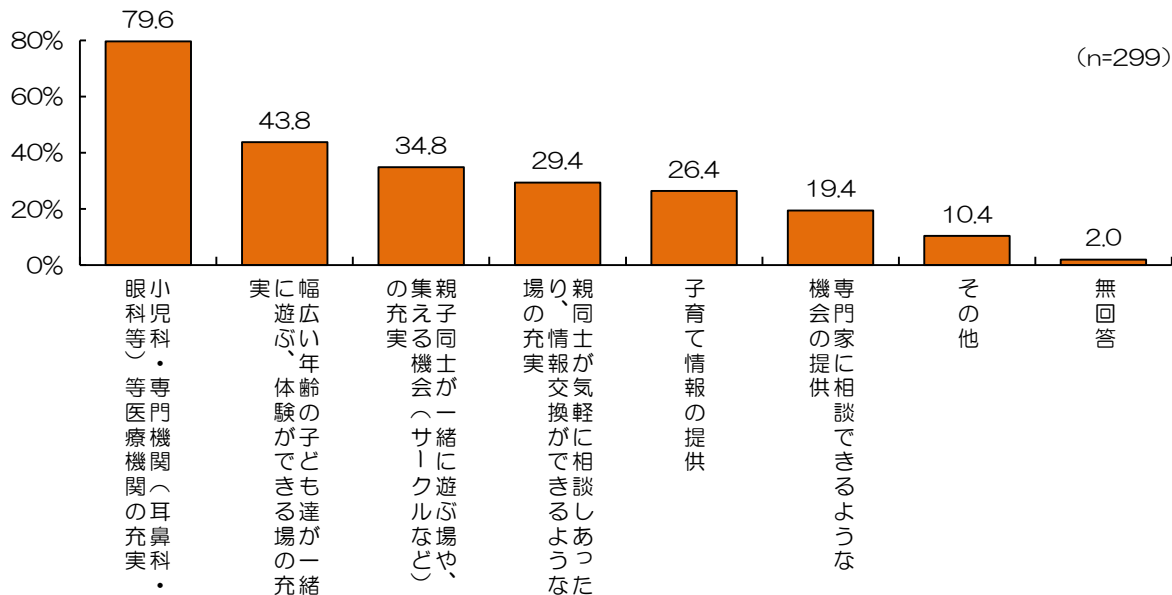
⑮子育てがしやすいまちだと思うか



(n=299)

子育てがしやすいまちだと思うかにおいては、「思う」が37.1%、「思わない」が60.2%となっています。

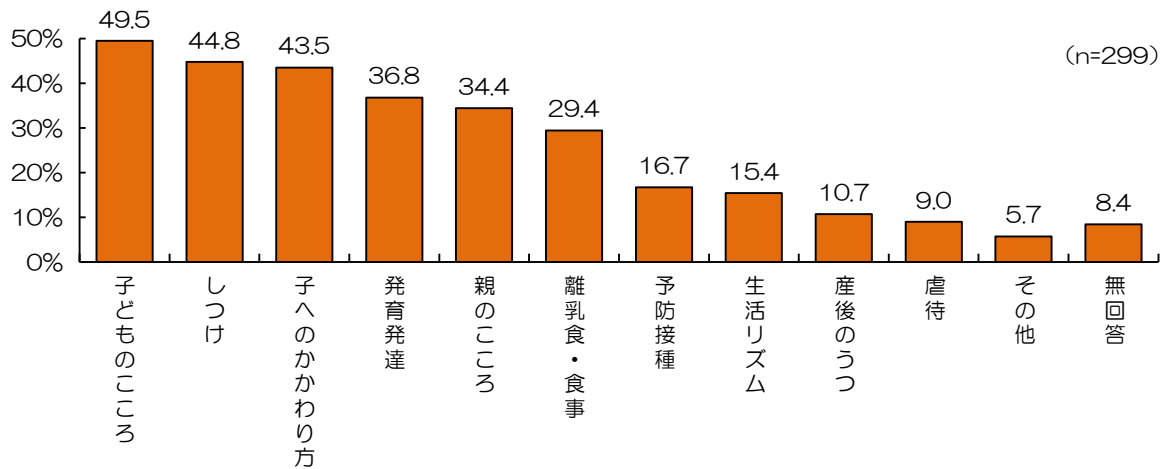
⑯子育てをしやすいまちにするために力を入れるべきこと



(n=299)

子育てをしやすいまちにするために力を入れるべきことにおいては、「小児科・専門機関（耳鼻科・眼科等）等医療機関の充実」が79.6%と最も多く、次いで「幅広い年齢の子ども達と一緒に遊ぶ、体験ができる場の充実」が43.8%、「親子同士が一緒に遊ぶ場や、集える機会（サークルなど）の充実」が34.8%などとなっています。

⑪子育てにおいてあればいいと思う相談事業や教室



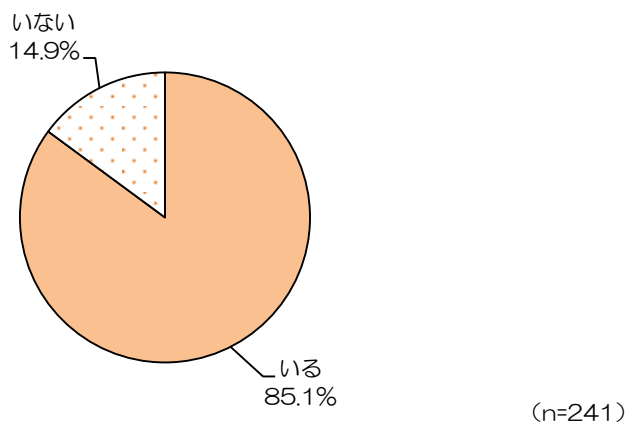
子育てにおいてあればいいと思う相談事業や教室においては、「子どものころ」が49.5%と最も多く、次いで「しつけ」が44.8%、「子へのかかわり方」が43.5%などとなっています。

アンケートから見る課題

- ❖ 食事に関する啓発活動の展開
- ❖ 子育てに対する相談体制の充実
- ❖ 子どもの遊び場や親子で触れ合える機会の充実
- ❖ 医療に関する情報提供の充実

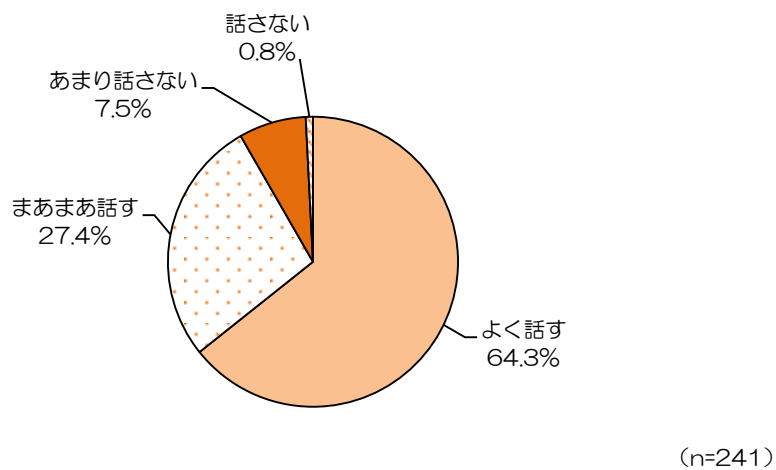
(2) 中学生～18歳

①親友と呼べる人の有無



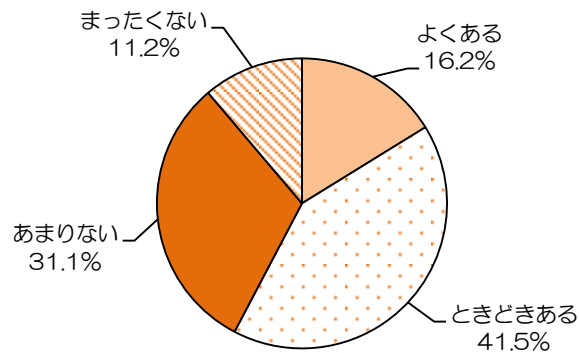
親友と呼べる人の有無においては、「いる」が85.1%、「いない」が14.9%となっています。

②家族との会話の有無



家族との会話の有無においては、「よく話す」が64.3%、「まあまあ話す」が27.4%、「あまり話さない」が7.5%、「話さない」が0.8%となっています。

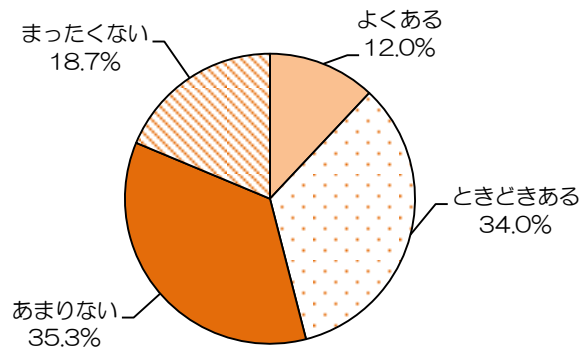
③隣近所の方と交流する機会の有無



(n=241)

隣近所の方と交流する機会の有無においては、「よくある」が16.2%、「ときどきある」が41.5%、「あまりない」が31.1%、「まったくない」が11.2%となっています。

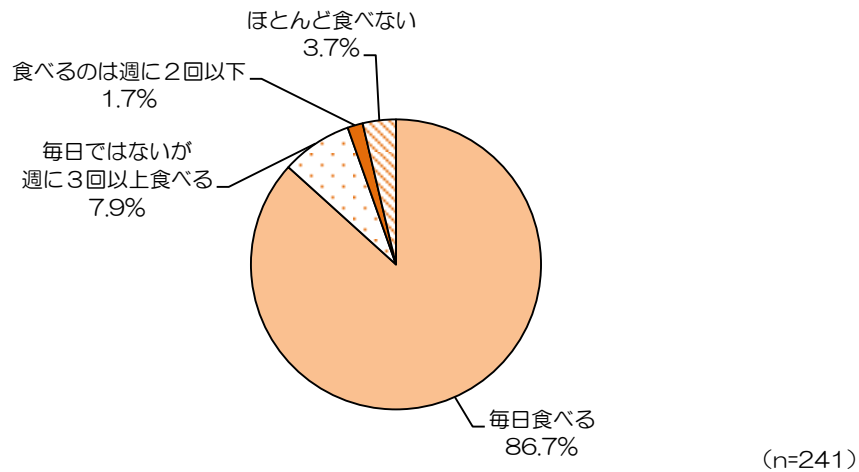
④地域の団体活動に参加する機会の有無



(n=241)

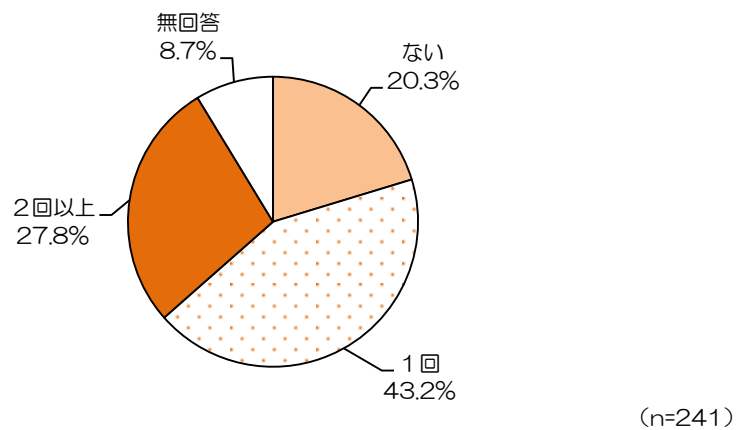
地域の団体活動に参加する機会の有無においては、「よくある」が12.0%、「ときどきある」が34.0%、「あまりない」が35.3%、「まったくない」が18.7%となっています。

⑤朝食を食べているか



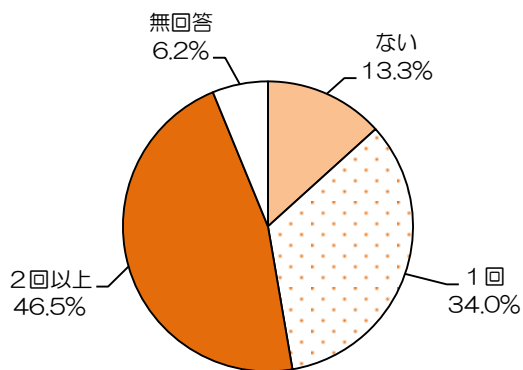
朝食を食べているかにおいては、「毎日食べる」が86.7%、「毎日ではないが週に3回以上食べる」が7.9%、「食べるのは週に2回以下」が1.7%、「ほとんど食べない」が3.7%となっています。

⑥家族全員がそろって食べる回数



家族全員がそろって食べる回数においては、「ない」が20.3%、「1回」が43.2%、「2回以上」が27.8%となっています。

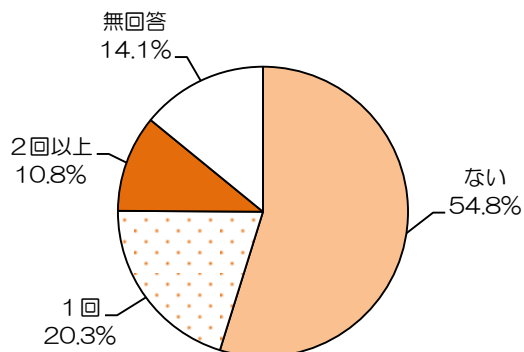
⑦ 全員はそろわないが、家族と一緒に食べる回数



(n=241)

全員はそろわないが、家族と一緒に食べる回数においては、「ない」が13.3%、「1回」が34.0%、「2回以上」が46.5%となっています。

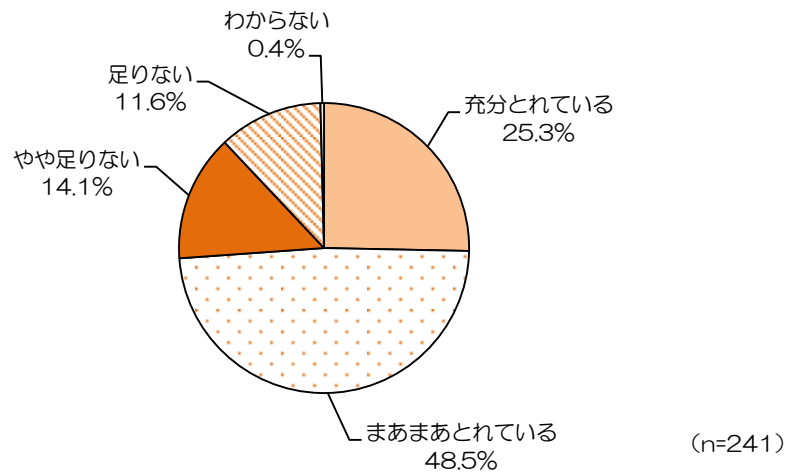
⑧ 1人で食べる回数



(n=241)

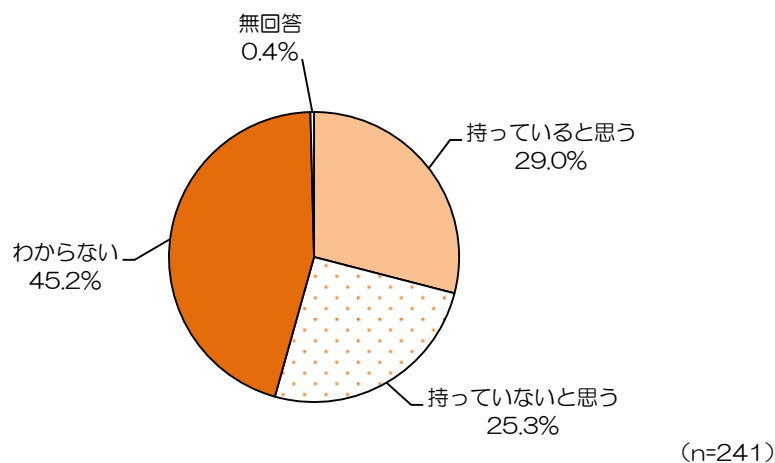
1人で食べる回数においては、「ない」が54.8%、「1回」が20.3%、「2回以上」が10.8%となっています。

⑨ふだんの睡眠時間で休養が充分とれているか



ふだんの睡眠時間で休養が充分とれているかにおいては、「まあまあとれている」が48.5%と最も多く、次いで「充分とれている」が25.3%、「やや足りない」が14.1%などとなっています。

⑩エイズや性感染症について正しい知識を持っていると思うか



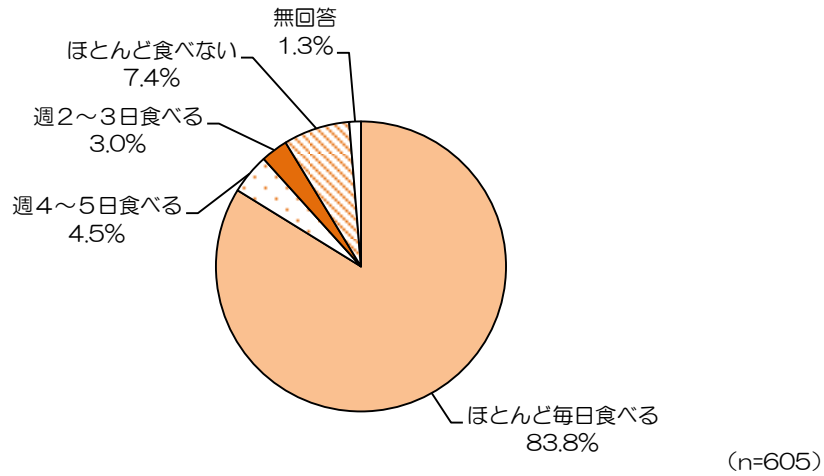
エイズや性感染症について正しい知識を持っていると思うかにおいては、「持っていると思う」が29.0%、「持っていないと思う」が25.3%、「わからない」が45.2%となっています。

アンケートから見る課題

- ❖ 家族や周囲とのコミュニケーションに対する支援
- ❖ 地域活動など地域との交流の促進
- ❖ 食事や睡眠に関する啓発活動の展開
- ❖ 性感染症等に対する正しい知識の啓発

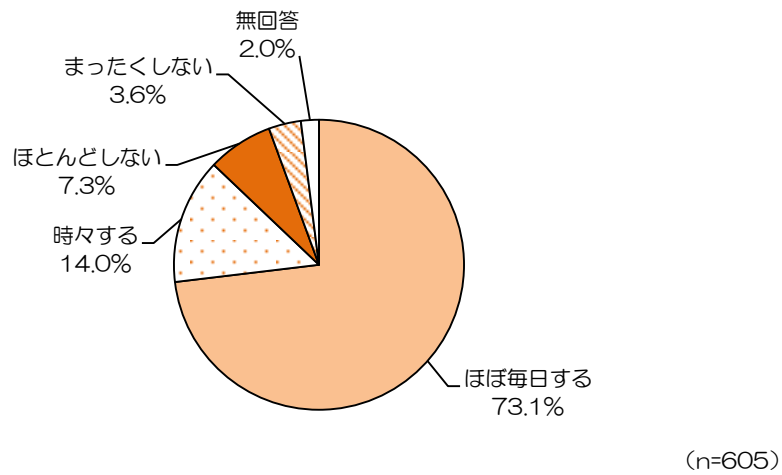
(3) 一般市民

① ふだん朝食を食べるか



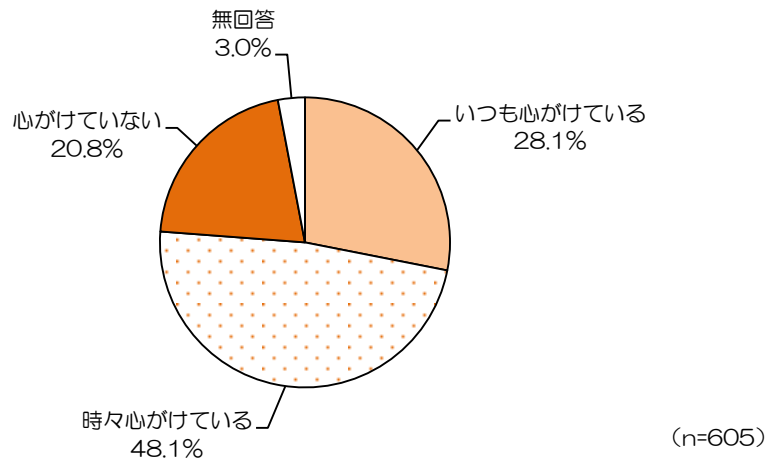
ふだん朝食を食べるかにおいては、「ほとんど毎日食べる」が83.8%、「週4~5日食べる」が4.5%、「週2~3日食べる」が3.0%、「ほとんど食べない」が7.4%となっています。

② 1日1食以上、家族や友人とともに食事をするか



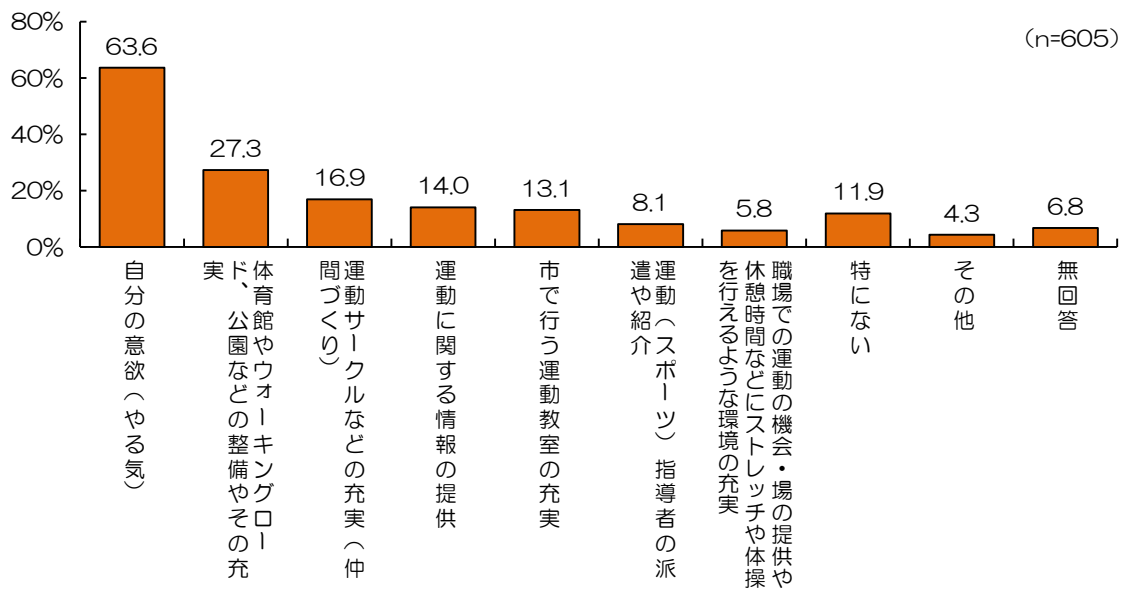
1日1食以上、家族や友人とともに食事をするかにおいては、「ほぼ毎日する」が73.1%、「時々する」が14.0%、「ほとんどしない」が7.3%、「まったくしない」が3.6%となっています。

③健康の維持・増進のために、体を動かすように心がけているか



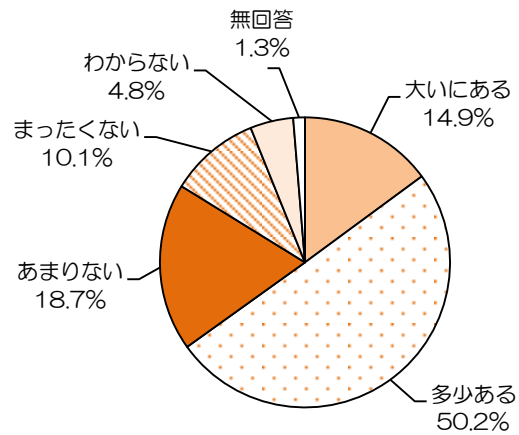
健康の維持・増進のために、体を動かすように心がけているかにおいては、「いつも心がけている」が28.1%、「時々心がけている」が48.1%、「心がけていない」が20.8%となっています。

④運動を行うために必要なきっかけ



運動を行うために必要なきっかけにおいては、「自分の意欲（やる気）」が63.6%と最も多く、次いで「体育館やウォーキングロード、公園などの整備やその充実」が27.3%、「運動サークルなどの充実（仲間づくり）」が16.9%などとなっています。

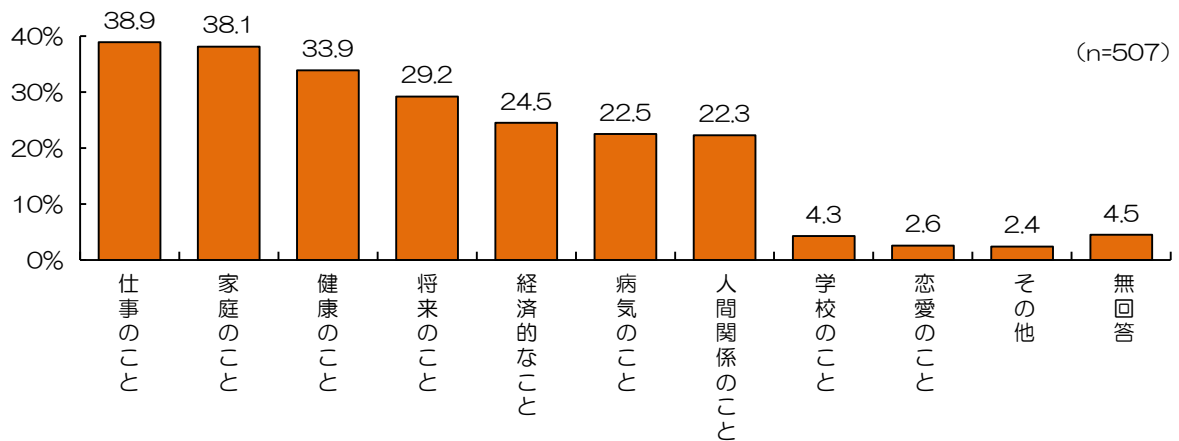
⑤ ストレスの有無



(n=605)

ストレスの有無においては、「多少ある」が50.2%と最も多く、次いで「あまりない」が18.7%、「大いにある」が14.9%などとなっています。

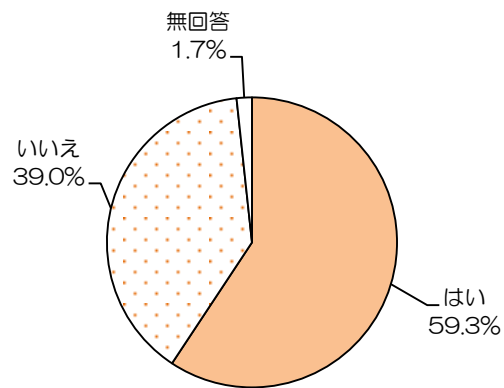
⑥ ストレスの原因



(n=507)

ストレスの原因においては、「仕事のこと」が38.9%と最も多く、次いで「家庭のこと」が38.1%、「健康のこと」が33.9%などとなっています。

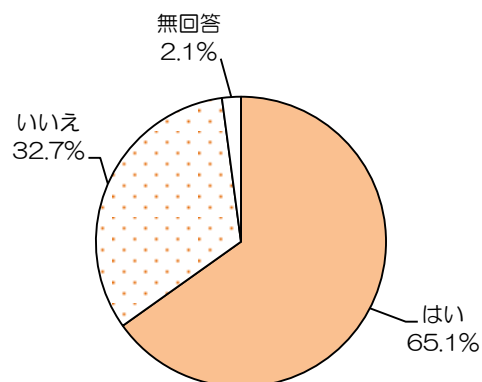
⑦睡眠による休養を十分とれていると思うか



(n=605)

睡眠による休養を十分とれていると思うかにおいては、「はい」が59.3%、「いいえ」が39.0%となっています。

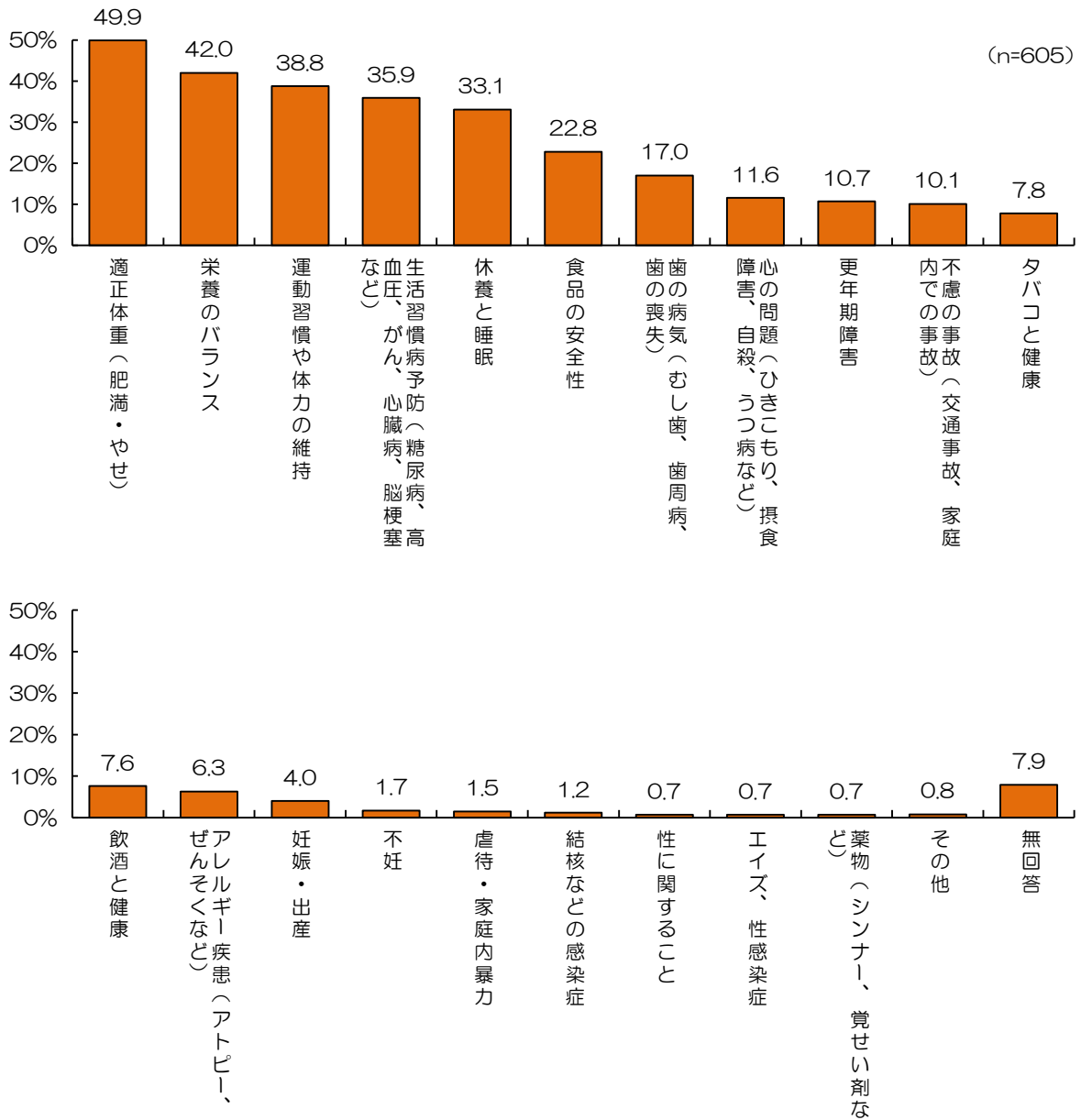
⑧健康診断の受診状況



(n=605)

健康診断の受診状況においては、「はい」が65.1%、「いいえ」が32.7%となっています。

⑨健康に関して関心のあること



健康に関して関心のあることにおいては、「適正体重（肥満・やせ）」が49.9%と最も多く、次いで「栄養のバランス」が42.0%、「運動習慣や体力の維持」が38.8%などとなっています。

アンケートから見る課題

- ❖ 食事に関する啓発活動の展開
- ❖ 健康づくり活動に気軽に取り組める支援
- ❖ 睡眠やこころの健康に関する支援

3 第7次健康増進計画の評価

(1) 達成度の区分内容

「大月市第7次健康増進計画」の評価を行うにあたり、各種統計データや「大月市第8次健康増進計画」策定に伴うアンケート結果などにより、各指標について達成状況を評価するため、判定を行いました。

各指標の達成度の判定にあたっては、大月市が定めた判定区分により行いました。

■判定区分

達成度	内容
A	平成29年度の目標値を達成している。
B	平成29年度の目標値を達成していないが、平成24年度の現状より改善している。
C	平成24年度の現状より悪化している。
D	評価指標の変更等により判定できない。

(2) 評価

①子ども

■親子で一緒に、健全な生活習慣を確立しよう！

①食事についての正しい知識を育み、楽しい食習慣を身につけよう

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度	平成29年度	達成度
		平成24年度 の現状	の目標	の現状	
日に1回は家族全員が揃って食べる子どもの増加	乳幼児期	69.1%	71.0%	70.2%	B
	学童期	71.1%	73.0%	70.1%	C
	思春期	65.1%	68.0%	71.0%	A
日に1回は全員が揃わないが、家族と食べる子どもの増加	乳幼児期	86.2%	88.0%	78.2%	C
	学童期	74.7%	80.0%	83.4%	A
	思春期	77.2%	82.0%	80.5%	B
朝食を欠食する人の減少	乳幼児期	10.6%	0.0%	8.1%	B
	学童期	6.0%	0.0%	5.1%	B
	思春期	7.4%	0.0%	13.3%	C
「家族で食事週間」を知っている保護者の増加	保護者	8.9%	50.0%	5.0%	C
小学生の肥満傾向児の割合 (内科検診)	小学生	-	2.0%	1.6% (平成28年度)	A

②早寝、早起きで健康的な生活リズムを身につけよう

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度
		平成24年度 の現状			
21時以降に寝る子どもの減少	乳幼児	84.1%	80.0%	79.4%	A
	1.6歳	68.9%	65.0%	62.8%	A
	3歳	79.2%	75.0%	78.3%	B
早寝・早起き・朝ごはんを実践している子どもの増加	学童期	56.6%	65.0%	22.9%	C
睡眠による休養を十分にとれていない子どもの減少	思春期	37.6%	30.0%	25.7%	A

③十分に体を動かして、健康づくりの基礎を身につけよう

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度
		平成24年度 の現状			
安心して子どもを遊ばせられる場所が近所にあると感じている保護者の増加	保護者	62.6%	65.0%	67.2%	A
外で遊ぶ機会が多いと感じている保護者の増加	保護者	52.1%	55.0%	52.5%	B

④歯の健康について学び、よく噛んで食べることを心がけよう

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度
		平成24年度 の現状			
1日3回歯をみがく子どもの増加	乳幼児～ 小学生	37.9%	60.0%	33.4%	C
よく噛んで食べるよう子どもに指導している保護者の増加	保護者	78.4%	90.0%	72.6%	C
仕上げみがきをしている保護者の増加	乳幼児保護者	94.7%	100.0%	86.5%	C
	小学生保護者	38.6%	50.0%	30.6%	C
う歯のない3歳児の増加	3歳	73.4%	80.0%	84.9% (平成28年度)	A
むし歯予防法を知っている保護者の増加	乳幼児～ 小学生	81.1%	90.0%	78.3%	C
8020運動を知っている保護者の増加	保護者	63.7%	80.0%	55.5%	C

■親子ともに心の健康を保とう！

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度	
		平成24年度 の現状				
育児について相談相手がいる母親の増加	母親	92.1%	100.0%	95.3%	B	
子育てに参加する父親の増加	よくしている	父親	40.5%	45.0%	43.5%	B
	時々している	父親	36.8%	40.0%	33.8%	C
子どもと一緒に遊ぶ父親の増加	よく遊ぶ	父親	35.3%	40.0%	39.1%	B
	時々遊ぶ	父親	41.1%	45.0%	37.1%	C
子育てに自信が持てない母親の減少	母親	54.7%	45.0%	56.5%	C	
子どもを虐待していると思うことがある保護者の減少	保護者	12.6%	8.0%	12.4%	B	

■安心して出産・育児ができる環境づくりをしよう！

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度		
		平成24年度 の現状					
低出生体重児の出生割合の減少		-	10.0%	11.1% (平成28年度)	D		
子育てについて必要な情報が得られていると感じている保護者の増加	保護者	54.7%	60.0%	68.2%	A		
子どもが必要時に必要な医療が受けられていると思う保護者の増加	保護者	50.0%	55.0%	61.2%	A		
乳幼児健診受診率の向上	4か月	平成23年度	96.7%	100.0%	平成28年度	97.8%	B
	9か月	平成23年度	96.1%	100.0%	平成28年度	97.2%	B
	1.6歳	平成23年度	97.9%	100.0%	平成28年度	100.0%	A
	3歳	平成23年度	98.5%	100.0%	平成28年度	97.2%	C
	2歳歯科	平成23年度	93.1%	95.0%	平成28年度	98.3%	A

■健全な思春期を送ろう！

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度	平成29年度	達成度	
		平成24年度 の現状	の目標	の現状		
自分を大切にできていると感じている子どもの増加	思春期	86.6%	90.0%	90.9%	A	
育児は家族全員でするものとする子どもの増加	思春期	57.0%	65.0%	62.2%	B	
赤ちゃんを抱っこしたことがある子どもの増加	思春期	76.5%	85.0%	69.7%	C	
家族とよく話す子どもの増加	思春期	59.1%	65.0%	64.3%	B	
親友と呼べる人がいる子どもの増加	思春期	87.2%	90.0%	85.1%	C	
地域との交流機会が多い子どもの増加（近所付き合いの機会がよくある）	中学生	11.8%	20.0%	22.1%	A	
	高校生	18.3%	20.0%	12.0%	C	
地域との交流機会が多い子どもの増加（地域活動等への参加機会がよくある）	中学生	14.5%	20.0%	22.1%	A	
ストレスを発散できていると感じる子どもの増加	思春期	-	60.0%	38.2%	D	
避妊に関して正しい知識を持っていると考えている高校生の増加	高校生	71.8%	80.0%	59.4%	C	
性感染症の認知率の向上	高校生	クラミジア	56.3%	63.0%	43.6%	C
		淋病	25.4%	30.0%	26.3%	B
		エイズ（HIV）	98.6%	100.0%	92.5%	C
		梅毒	42.3%	45.0%	42.1%	C
		性器ヘルペス	36.6%	45.0%	40.6%	B
避妊に関する情報を学校の授業等から得ている中高生の増加	中学生	23.1%	40.0%	75.0%	A	
	高校生	69.0%	75.0%	92.4%	A	
性感染症に関する情報を学校の授業等から得ている中高生の増加	中学生	74.4%	80.0%	75.7%	B	
	高校生	95.8%	100.0%	91.1%	C	
喫煙経験のある中高生の減少	中学生	5.1%	0.0%	1.0%	B	
	高校生	4.2%	0.0%	0.8%	B	
喫煙が健康に大いに害があると考えている子どもの増加	思春期	96.0%	100.0%	92.1%	C	
飲酒経験のある中高生の減少	中学生	12.8%	0.0%	2.9%	B	
	高校生	19.7%	0.0%	4.5%	B	
飲酒が健康に大いに害があると考え	思春期	20.1%	50.0%	19.9%	C	

えている子どもの増加					
------------	--	--	--	--	--

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度の目標	平成29年度の現状	達成度
		平成24年度の現状			
薬物について「心身に害がある」と認識している子どもの増加	中学生	82.1%	85.0%	71.2%	C
	高校生	78.9%	85.0%	72.9%	C
薬物について「1回使うくらいであれば害はない」と認識している子どもをなくす	中学生	0.0%	0.0%	0.0%	A
	高校生	0.0%	0.0%	0.8%	C

②働きざかり・高齢者

■栄養や食事量などのバランスを意識し、自分にあった食生活を実践しよう！

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度
		平成24年度 の現状			
家族と食事をとる人（1日1回、家で2人以上で食べることが多い人）の増加	成人期	73.7%	75.0%	76.6%	A
	高齢期	63.5%	70.0%	69.7%	B
朝食を欠食する人の減少	成人期	19.6%	15.0%	24.3%	C
脂っこいものを控えている人の増加	成人期	54.2%	59.0%	46.7%	C
	高齢期	71.6%	75.0%	67.2%	C
食塩を控えている人の増加	成人期	51.4%	60.0%	41.4%	C
	高齢期	67.6%	75.0%	69.3%	B
牛乳・乳製品を毎日食べる人の増加	成人期	33.5%	40.0%	33.6%	B
	高齢期	39.2%	45.0%	49.3%	A
豆類を毎日食べる人の増加	成人期	19.6%	25.0%	21.8%	B
	高齢期	33.8%	40.0%	33.6%	C
緑黄色野菜を毎日食べる人の増加	成人期	32.4%	40.0%	29.0%	C
	高齢期	43.2%	50.0%	33.6%	C
外食や食品の栄養分表示を参考に する人の増加	成人期	15.1%	20.0%	13.7%	C
	高齢期	16.2%	20.0%	12.0%	C

■意識的に体を動かし、自分に合った運動習慣を身につけよう！

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度
		平成24年度 の現状			
運動習慣者の増加	成人期	26.3%	30.0%	22.1%	C
	高齢期	36.5%	40.0%	34.7%	C
意識的に運動を心がけている人の 増加	成人期	29.1%	35.0%	24.3%	C
	高齢期	35.1%	40.0%	33.2%	C

■自分の体のことを知り、健康管理に取り組もう！

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度
		平成24年度 の現状			
健康診断を受ける人の増加	成人期	71.5%	75.0%	60.1%	C
	高齢期	70.9%	72.0%	70.4%	C
がん検診を受ける人の増加	成人期	57.5%	60.0%	44.2%	C
	高齢期	66.2%	70.0%	61.7%	C
かかりつけ医を持つ人の増加	成人期	48.6%	50.0%	50.8%	A
	高齢期	83.1%	85.0%	85.0%	A
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（肺がん）	成人期	93.9%	100.0%	90.3%	C
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（ぜんそく）	成人期	63.1%	70.0%	52.3%	C
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（気管支炎）	成人期	63.1%	70.0%	59.8%	C
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（心臓病）	成人期	35.8%	50.0%	33.6%	C
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（脳卒中）	成人期	38.6%	50.0%	40.2%	B
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（胃かいよう）	成人期	15.6%	20.0%	17.8%	B
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（妊婦に関連した異常）	成人期	65.4%	100.0%	69.2%	B
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（歯周病）	成人期	24.0%	50.0%	32.4%	B
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（肺気腫）	成人期	55.9%	70.0%	49.2%	C
喫煙の健康影響に関して知っている人の増加（SIDS）	成人期	20.1%	50.0%	23.7%	B

■こころの健康を保ち、楽しい毎日を送ろう！

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度
		平成24年度 の現状			
睡眠による休養を十分にとれていない人の減少	成人期	44.7%	40.0%	50.2%	C
	高齢期	27.7%	25.0%	69.7%	C
睡眠確保のために睡眠補助品やアルコールを使うことがある人の減少	成人期	19.6%	18.0%	19.6%	B
	高齢期	33.1%	30.0%	29.9%	A
ストレスを感じた人の減少	成人期	79.9%	75.0%	85.4%	C
	高齢期	64.2%	60.0%	82.1%	C
ストレスを感じた人のうち、解消できている人の増加	成人期	65.9%	75.0%	76.6%	A
	高齢期	51.4%	60.0%	65.7%	A
自殺者の減少		-	40.0%	24.2% (平成28年度)	A

■8020を目指そう！

目標設定	対象	第7次計画	平成29年度 の目標	平成29年度 の現状	達成度
		平成24年度 の現状			
フッ化物配合歯みがき剤を使用する人の増加	成人期	26.8%	50.0%	33.0%	B
	高齢期	19.6%	30.0%	20.1%	B
ブラッシング指導を受ける人の増加	成人期	10.6%	20.0%	6.2%	C
	高齢期	8.1%	20.0%	10.6%	B
歯間部清掃器具を使用する人の増加	成人期	41.3%	50.0%	49.2%	B
	高齢期	40.5%	50.0%	48.2%	B
定期的に歯石除去や歯面清掃を受ける人の増加	成人期	15.6%	20.0%	18.1%	B
	高齢期	18.9%	20.0%	22.3%	A
定期的に歯科健診を受ける人の増加	成人期	24.6%	30.0%	21.2%	C
	高齢期	37.2%	40.0%	24.5%	C
かかりつけ歯科医を持つ人の増加	成人期	30.7%	40.0%	34.9%	B
	高齢期	55.4%	60.0%	55.1%	C
8020運動を知っている人の増加	成人期	55.9%	80.0%	53.6%	C
	高齢期	42.6%	60.0%	50.7%	B
60歳で24歯以上自分の歯を有する人の増加	60歳	16.4%	20.0%	77.8%	A
80歳で20歯以上自分の歯を有する人の増加	80歳	15.9%	18.0%	33.3%	A

第3章 基本方針

1 計画の基本理念

本市においては、市民の一人ひとりが「生き生きと健やかに」暮らし、「安心と幸せを」実感し、「大月に生まれて（暮らして）良かった」と思えるような地域を実現するために、豊かな自然環境を背景として、「みんなでつくろう！健康で心豊かな緑あふれる大月市」を目標として、健康づくりの取組みを推進してきました。第8次計画においても、これまでの目標を基本理念とし、市民一人ひとりの主体的な健康づくりの取組みや、家庭、地域の健康づくりを支援するために、学校、企業、行政、関係機関・団体等の連携を図りながら、健康増進に関する施策を展開していきます。

2 計画の基本的な方向性

大月市第7次健康増進計画の評価やアンケート調査などの結果、これまでの施策の展開などによる課題等を踏まえ、大月市第8次健康増進計画の取組みの基本的な方向性を以下とします。

(1) ライフステージに応じた取組み

市民一人ひとりが、自分の健康を自分で守ることができ、その人にあった健康づくり活動に日頃から気軽に取り組むことができるよう、ライフステージに応じた健康施策を推進し、健康寿命を延伸させ、いきいきと暮らせる生活の質の向上に努めます。

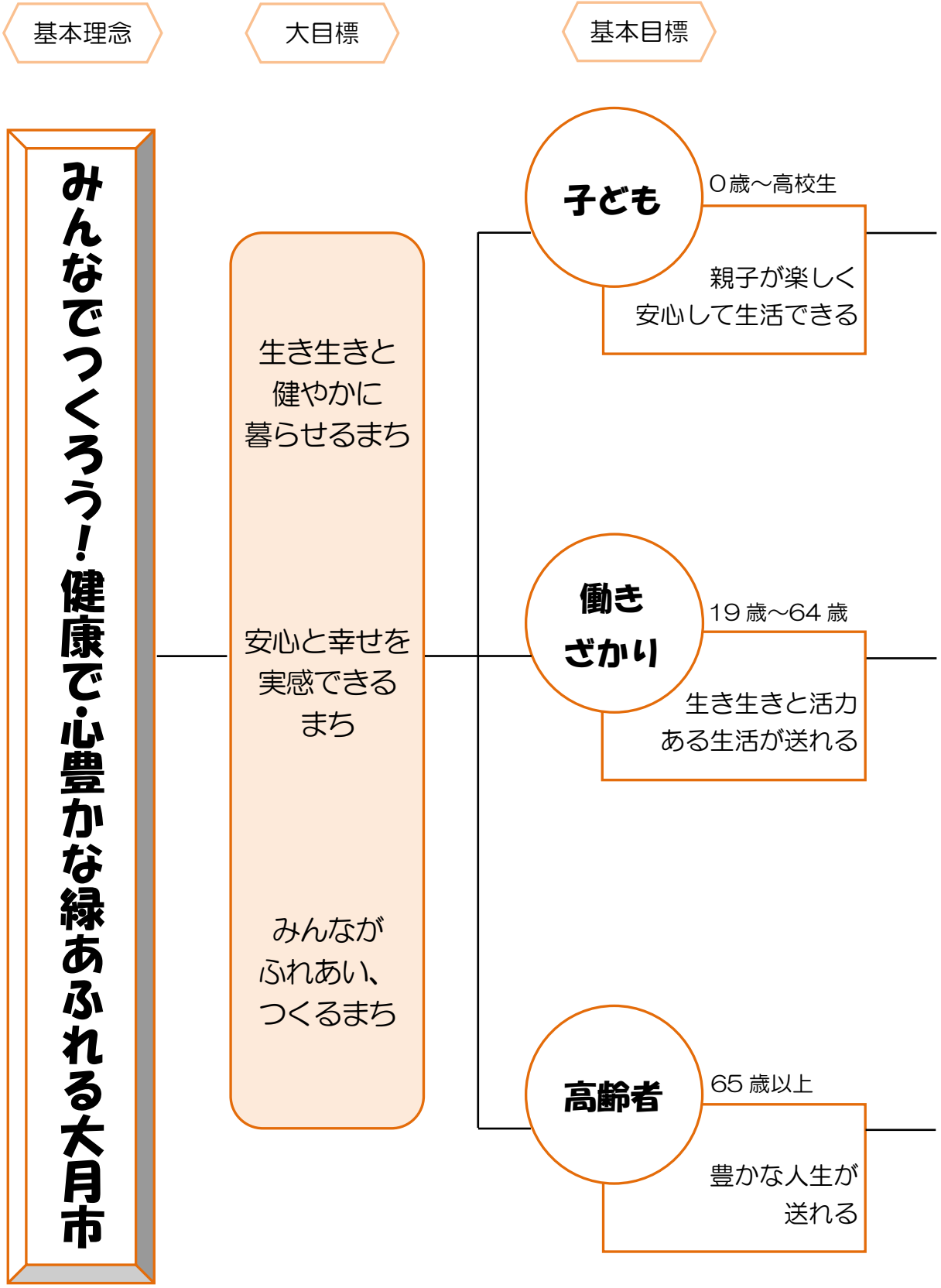
(2) 生活習慣病の発症予防と重症化の予防

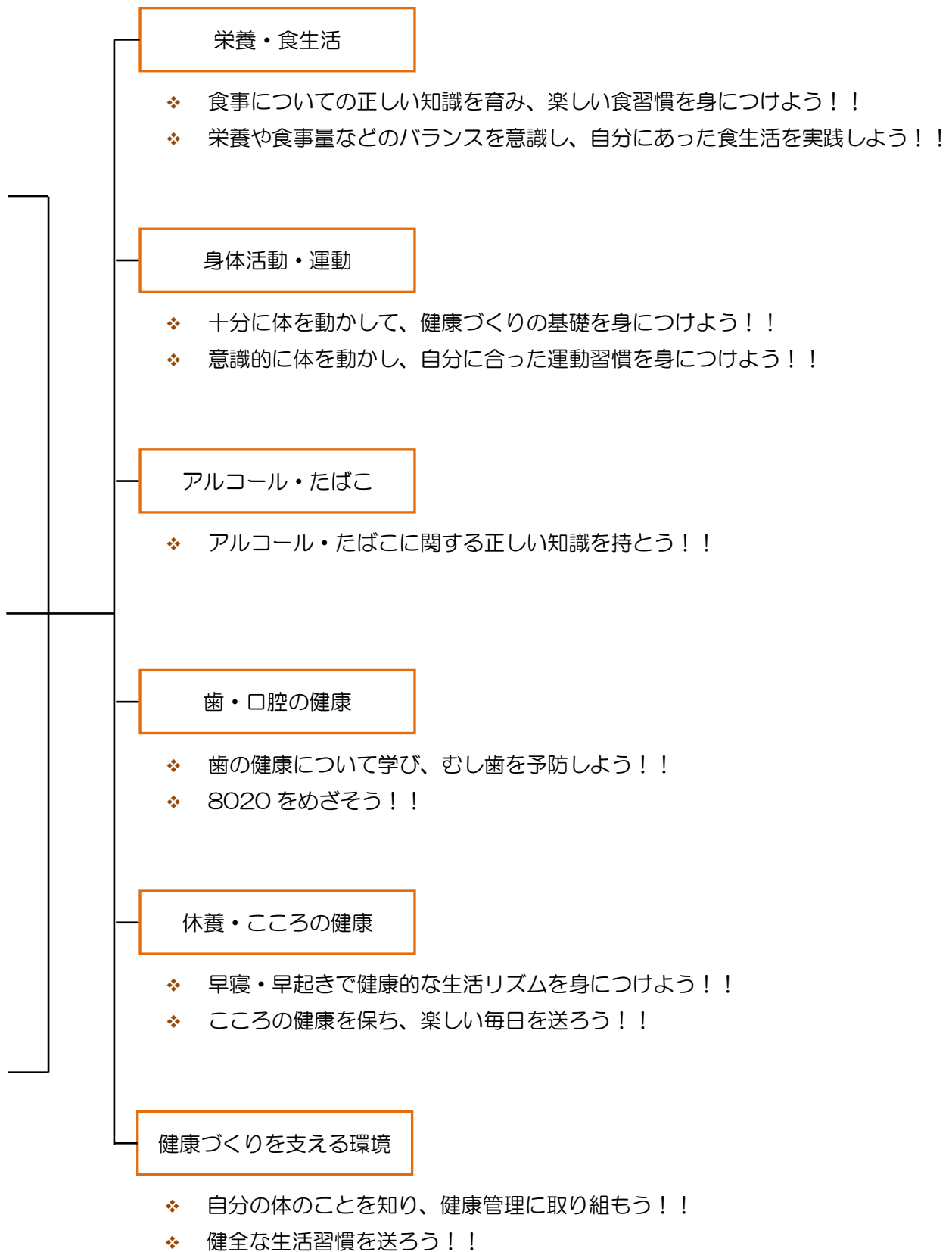
生活習慣病を予防するための健康づくり活動や、日頃からの食生活、運動習慣の定着、早期発見のための健診等の受診率向上などの取組みを推進するとともに、合併症の発症や症状の進行などによる重症化の予防を推進します。

(3) 健康を支え、守る環境の整備

個人の健康づくり活動は、家庭、学校、職場等の環境の影響を受けることから、個人の健康づくり活動を支える環境整備が必要です。また、健康づくりにあたっては、健康上の問題がない状態で、日常生活を送ることができる期間である健康寿命をいかに伸ばすかが重要となります。地域の支え合いや多種多様な関係機関との連携を通じて、個人が健康づくり活動に取り組める環境を整備し、また、健康づくりに取り組むために、地域のつながりにも着目し、保健活動推進員の養成や育成を図ります。

3 計画の体系





第4章 健康づくりの取組み

1 子ども

(1) 現状と課題

乳幼児期は、心身ともに成長が著しい時期であり、生涯にわたる心身の健康づくりの基礎を形成する重要な時期となります。この時期においては、両親の影響が大きく、妊娠期からの取組みが重要となります。

児童・青年期においては、心身ともに大人に移行する時期であると同時に、生活習慣が確立していく時期でもあります。この時期は家庭だけではなく、学校や地域などの周囲の影響を強く受けるため、家庭や学校、地域などと連携した取組みが必要です。

アンケート調査結果においても、朝食を欠食する割合が6.4%となっており、また、家族全員がそろって食べる回数がないと答えている割合が13.9%となっています。食事という観点からの取組みの必要性がうかがえます。また、子育てに自信が持てないと答えた割合は56.5%となっており、子育てに対する支援も求められています。

関係機関と連携しながら、妊娠期から児童・青年期までの切れ目のない子育て支援や、健康意識の形成が必要となります。

(2) 施策の方向・指標

① 栄養・食生活

- ❖ 食生活は両親の影響が大きいいため、妊娠中より情報提供や相談機会の充実を図ります。
- ❖ 保健師・栄養士による栄養や食生活に関する相談機会の充実を図ります。
- ❖ 学校と連携し、健康教育の実施や個別栄養相談等を通じて、肥満のある児童・生徒の減少を目指します。
- ❖ 「家族で食事週間」の周知を行い、家族で食事をとれる機会を増やします。
- ❖ 学校と連携し、児童・生徒だけではなく、家庭に対しても、朝食の欠食をすることの問題や食の大切さを啓発します。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
朝食を欠食する人	減少	乳幼児期	10.6%	8.1%	5.0%
		学童期	6.0%	5.1%	4.0%
		思春期	7.4%	13.3%	9.0%
日に1回は家族全員が揃って食べる子ども	増加	乳幼児期	69.1%	70.2%	72.0%
		学童期	71.1%	70.1%	72.0%
		思春期	65.1%	71.0%	72.0%
日に1回は全員が揃わないが、家族と食べる子ども	増加	乳幼児期	86.2%	78.2%	80.0%
		学童期	74.7%	83.4%	85.0%
		思春期	77.2%	80.5%	82.0%
「家族で食事週間」を知っている保護者	増加	保護者	8.9%	5.0%	10.0%
小学生の肥満傾向児 (内科検診)	減少	小学生	-	1.6% (平成28年度)	1.0%

② 身体活動・運動

- ❖ 子どもと一緒に気軽に行えるような運動の紹介や提案を通じて、運動習慣の定着を図ります。
- ❖ 子どもが安心して遊べる機会を充実させるとともに、情報提供を行います。
- ❖ 乳幼児期から運動することの大切さを啓発することで、運動習慣を定着させます。
- ❖ 子どもが楽しいと思える運動機会の充実・提供を通じて、運動習慣を定着させます。

③アルコール・たばこ

- ❖ 妊娠中の飲酒・喫煙の危険性についての啓発を行います。
- ❖ 喫煙歴のある妊婦への個別指導等により、禁煙の必要性や再喫煙防止への情報提供を行います。
- ❖ 飲酒・喫煙・受動喫煙・薬物が健康に及ぼす害についての啓発を行い、未成年の喫煙・飲酒・薬物利用防止を図ります。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
飲酒経験のある中高生	減少	中学生	12.8%	2.9%	0.0%
		高校生	19.7%	4.5%	0.0%
飲酒が健康に大いに害があると考えている子ども	増加	思春期	20.1%	19.9%	30.0%
喫煙経験のある中高生	減少	中学生	5.1%	1.0%	0.0%
		高校生	4.2%	0.8%	0.0%
喫煙が健康に大いに害があると考えている子ども	増加	思春期	96.0%	92.1%	100.0%
薬物について「心身に害がある」と認識している子ども	増加	中学生	82.1%	71.2%	80.0%
		高校生	78.9%	72.9%	80.0%
薬物について「1回使うくらいであれば害はない」と認識している子ども	減少	中学生	0.0%	0.0%	0.0%
		高校生	0.0%	0.8%	0.0%

④歯・口腔の健康

- ❖ 月齢に応じた歯科保健指導の実施等を通じて、親の歯科保健に対する意識の向上を図ります。
- ❖ 歯磨き習慣を定着できるような情報提供や啓発活動を行います。
- ❖ 口腔機能を育てるため、噛むことの重要性を啓発します。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度の現状	平成34年度の目標
			平成24年度の現状		
1日3回歯をみがく子ども	増加	乳幼児～小学生	37.9%	33.4%	40.0%
よく噛んで食べるよう子どもに指導している保護者	増加	保護者	78.4%	72.6%	80.0%
仕上げみがきをしている保護者	増加	乳幼児保護者	94.7%	86.5%	95.0%
		小学生保護者	38.6%	30.6%	40.0%
う歯のない3歳児	増加	3歳	73.4%	84.9% (平成28年度)	86.0%
むし歯予防法を知っている保護者	増加	乳幼児～小学生	81.1%	78.3%	85.0%
8020運動を知っている保護者	増加	保護者	63.7%	55.5%	70.0%

⑤休養・こころの健康

- ❖ 妊娠・出産・子育ての悩みや不安を相談できる体制を整備します。
- ❖ 20歳未満の若年妊婦等のハイリスク妊婦を把握し、支援を行います。
- ❖ 新生児訪問、産後ママの安心相談室、育児教室等を実施し、安心して子育てに取り組めるよう支援を行います。
- ❖ 育児教室等の子育て世代が交流できる機会の充実を図ります。
- ❖ 健診や教室、個別支援を通じて発達気になる子どもや課題のある子どもに対して支援を行います。
- ❖ 学校と情報交換を行いながら、思春期教室を開催します。
- ❖ 学校と連携しながら、こころの健康に関して相談できる機会を提供します。
- ❖ 性感染症に関する知識の普及を、学校と連携して行います。

⑥健康づくりを支える環境

- ❖ 子育て支援センターや教育機関等と連携し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を行える体制を整備します。
- ❖ 定期健診の結果から健康問題の早期発見を行い、治療につなげていきます。
- ❖ 乳幼児の予防接種の周知や個別指導を通じて、予防接種率の向上に努めます。
- ❖ 地域の中で気軽に健康づくりについて学べる機会を充実させます。
- ❖ 学校と連携した健康に関する意識の啓発を行うことで、心身の健康づくりを支援していきます。
- ❖ 地域の医療に関する情報提供を行います。
- ❖ 保健活動推進員と協力し、見守りや声かけなど子育てを支援し、命の大切さを伝えていきます。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標	
			平成24年度 の現状			
低出生体重児の出生割合	減少		-	11.1% (平成28年度)	10.0%	
21時以降に寝る子ども	減少	乳幼児	84.1%	79.4%	85.0%	
早寝・早起き・朝ごはん を実践している子ども	増加	学童期	56.6%	22.9%	40.0%	
睡眠による休養を十分に とれていない子ども	減少	思春期	37.6%	25.7%	20.0%	
安心して子どもを遊ばせら れる場所が近所にあると感 じている保護者	増加	保護者	62.6%	67.2%	70.0%	
外で遊ぶ機会が多いと感 じている保護者	増加	保護者	52.1%	52.5%	55.0%	
育児について相談相手が いる母親	増加	母親	92.1%	95.3%	98.0%	
子育てに参 加する父親	よくしている	増加	父親	40.5%	43.5%	45.0%
	時々している	増加	父親	36.8%	33.8%	40.0%
子どもと一緒 に遊ぶ父親	よく遊ぶ	増加	父親	35.3%	39.1%	40.0%
	時々遊ぶ	増加	父親	41.1%	37.1%	40.0%
子育てに自信が持てない 母親	減少	母親	54.7%	56.5%	50.0%	
子どもを虐待していると思 うことがある保護者	減少	保護者	12.6%	12.4%	10.0%	

指標	増減	対象	第7次計画 平成24年度 の現状		平成29年度 の現状		平成34年度 の目標		
子育てについて必要な情報が得られていると感じている保護者	増加	保護者	54.7%		68.2%		70.0%		
子どもが必要時に必要な医療が受けられていると思う保護者	増加	保護者	50.0%		61.2%		65.0%		
乳幼児健診受診率	増加	4か月	平	96.7%	平	97.8%	100.0%		
		9か月	成	96.1%	成	97.2%	100.0%		
		1.6歳	23	97.9%	28	100.0%	100.0%		
		3歳	年	98.5%	年	97.2%	100.0%		
		2歳歯科	度	93.1%	度	98.3%	100.0%		
自分を大切にできていると感じている子ども	増加	思春期	86.6%		90.9%		93.0%		
育児は家族全員でするものと考えている子ども	増加	思春期	57.0%		62.2%		65.0%		
赤ちゃんを抱っこしたことがある子ども	増加	思春期	76.5%		69.7%		75.0%		
家族とよく話す子ども	増加	思春期	59.1%		64.3%		65.0%		
親友と呼べる人がいる子ども	増加	思春期	87.2%		85.1%		88.0%		
ストレスを発散できていると感じる子ども	増加	思春期	-		38.2%		45.0%		
避妊に関して正しい知識を持っていると考えている高校生	増加	高校生	71.8%		59.4%		72.0%		
性感染症の認知率	クラミジア	増加	高校生	56.3%		43.6%		50.0%	
	淋病	増加		25.4%		26.3%		30.0%	
	エイズ(HIV)	増加		98.6%		92.5%		100.0%	
	梅毒	増加		42.3%		42.1%		45.0%	
	性器ヘルペス	増加		36.6%		40.6%		45.0%	
避妊に関する情報を学校の授業等から得ている中高生	増加	中学生	23.1%		75.0%		80.0%		
		高校生	69.0%		92.4%		95.0%		
性感染症に関する情報を学校の授業等から得ている中高生	増加	中学生	74.4%		75.7%		80.0%		
		高校生	95.8%		91.1%		96.0%		

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
地域との交流機会が多い 子ども(近所付き合いの機 会がよくある)	増加	中学生	11.8%	22.1%	25.0%
		高校生	18.3%	12.0%	20.0%
地域との交流機会が多い 子ども(地域活動等への参 加機会がよくある)	増加	中学生	14.5%	22.1%	25.0%

2 働きざかり

(1) 現状と課題

働きざかりである成人期は社会において活躍する時期ですが、この時期における生活習慣や運動習慣が生活習慣病を引き起こし、将来の健康状態に大きな影響を及ぼします。また、仕事や育児等によるストレスを抱える時期ともなります。

アンケート調査結果においても、朝食を欠食する割合は14.9%となっており、健康のために体を動かすことを心がけていない割合は20.8%となっています。また、ストレスを抱えていると答えた割合は65.1%と、半数以上がストレスを抱えていると回答しています。更には、睡眠による休養を十分とれていないと答えた割合も39.0%となっています。

この時期は忙しい日常生活を送る時期であるため、気軽に行える健康づくりをいかに定着させるか、また、生活習慣病をはじめとする様々な疾病を早期に発見すること、心のケアが重要となります。

(2) 施策の方向・指標

① 栄養・食生活

- ❖ 広報誌やホームページ等を活用し、栄養と食生活に関する情報提供を行います。
- ❖ 健康教育や特定保健指導等の実施により、メタボリックシンドロームの予防、改善を行います。
- ❖ 「家族で食事週間」の周知を行い、家族で食事をとれる機会を増やします。
- ❖ 講習会や料理教室を実施することで、食生活に関する知識の普及を行います。
- ❖ 保健活動推進員と連携して、食生活の改善に取り組みます。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
朝食を欠食する人	減少	成人期	19.6%	24.3%	18.0%
家族と食事をとる人(1日1回、家で2人以上で食べることが多い人)	増加	成人期	73.7%	76.6%	80.0%
脂っこいものを控えている人	増加	成人期	54.2%	46.7%	55.0%
食塩を控えている人	増加	成人期	51.4%	41.4%	55.0%
緑黄色野菜を毎日食べる人	増加	成人期	32.4%	29.0%	35.0%
外食や食品の栄養分表示を参考にする人	増加	成人期	15.1%	13.7%	20.0%

② 身体活動・運動

- ❖ ウォーキング教室等をはじめとする気軽に行える運動や体操の紹介、イベント情報を提供することで、運動習慣の定着を図ります。
- ❖ 楽しいと思えるスポーツイベントを実施することで、運動習慣の定着を図ります。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
運動習慣者	増加	成人期	26.3%	22.1%	30.0%
意識的に運動を心がけている人	増加	成人期	29.1%	24.3%	30.0%

③アルコール・たばこ

- ❖ 喫煙や受動喫煙が健康に及ぼす害に関する情報提供や講習会を実施します。
- ❖ 窓口における健康相談を行うことで、禁煙対策を推進します。
- ❖ 節度ある適度な飲酒と、飲酒が健康に与える影響についての情報提供や講習会を実施します。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
喫煙の健康影響に関して 知っている人（呼吸器※）	増加	成人期	93.9%	90.3%	95.0%
喫煙の健康影響に関して 知っている人（循環器※）	増加	成人期	35.8%	33.6%	45.0%
喫煙の健康影響に関して 知っている人（消化器※）	増加	成人期	15.6%	17.8%	20.0%
喫煙の健康影響に関して 知っている人（妊婦に関連 した異常）	増加	成人期	65.4%	69.2%	75.0%
喫煙の健康影響に関して 知っている人（歯周病）	増加	成人期	24.0%	32.4%	35.0%
喫煙の健康影響に関して 知っている人（乳幼児突然 死症候群）	増加	成人期	20.1%	23.7%	25.0%

※呼吸器：肺がん・ぜんそく・気管支炎・肺気腫

循環器：心臓病・脳卒中

消化器：胃かいよう・食道がん

④歯・口腔の健康

- ❖ 出前講座や健診結果説明会等を通じて、定期的な歯科健診の受診率向上や、日頃からの歯磨き習慣の定着を図ります。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度の現状	平成34年度の目標
			平成24年度の現状		
フッ化物配合歯みがき剤を使用する人	増加	成人期	26.8%	33.0%	40.0%
ブラッシング指導を受ける人	増加	成人期	10.6%	6.2%	10.0%
歯間部清掃器具を使用する人	増加	成人期	41.3%	49.2%	55.0%
定期的に歯石除去や歯面清掃を受ける人	増加	成人期	15.6%	18.1%	20.0%
定期的に歯科健診を受ける人	増加	成人期	24.6%	21.2%	30.0%
かかりつけ歯科医を持つ人	増加	成人期	30.7%	34.9%	40.0%
8020運動を知っている人	増加	成人期	55.9%	53.6%	70.0%

⑤休養・こころの健康

- ❖ 介護支援専門員、民生委員等、地域の中で「気づき、見守り、つながる」ことのできるゲートキーパーの育成及び周知を行います。
- ❖ うつや統合失調症等のこころの病気についての情報提供を行います。
- ❖ こころの健康について普及啓発を行い、相談できる体制の整備・周知を行います。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
睡眠による休養を十分にとれていない人	減少	成人期	44.7%	50.2%	40.0%
睡眠確保のために睡眠補助品やアルコールを使うことがある人	減少	成人期	19.6%	19.6%	18.0%
ストレスを感じた人	減少	成人期	79.9%	85.4%	80.0%
ストレスを感じた人のうち、解消できている人	増加	成人期	65.9%	76.6%	80.0%
自殺者	減少		-	24.2% (平成28年度)	20.0%

⑥健康づくりを支える環境

- ❖ 広報やSNS等を用いて健診・検診の情報提供を行い、また、過去に受診していない人への受診勧奨を通じて、受診率向上を図ります。
- ❖ 病院等の関係機関との連携強化や説明会の充実を通じて、健診・検診を受けやすい体制づくりに努めます。
- ❖ がんや生活習慣病等を予防する情報提供や教室の充実により、知識の普及を図ります。
- ❖ 健康教育や健康相談の充実により、参加者の増加を図ります。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度の現状	平成34年度の目標
			平成24年度の現状		
健康診断を受ける人	増加	成人期	71.5%	60.1%	75.0%
がん検診を受ける人	増加	成人期	57.5%	44.2%	55.0%
かかりつけ医を持つ人	増加	成人期	48.6%	50.8%	55.0%
健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている市民(子どもと高齢者を対象とする活動、防災、自然や環境を守る活動を含む)	増加	成人期	-	7.8%	10.0%

3 高齢者

(1) 現状と課題

高齢期は、心身が老化し、多様な機能の低下が現れ始める時期です。また、退職や子どもの独立などによりライフスタイルが変化し、ストレスが大きい時期でもあります。

アンケート調査結果においても、健康状態についてよくないと答えた割合が70歳以上で22.2%となっており、高い数値になっています。

高齢化の進行により、認知症や要介護高齢者が増加傾向にあり、家族だけではなく地域にも影響を及ぼすため、生きがいづくりや健康習慣の定着等により、いかに元気な高齢者を増やすかが重要となります。

(2) 施策の方向・指標

① 栄養・食生活

- ❖ 広報誌やホームページ等を活用し、栄養と食生活に関する情報提供を行います。
- ❖ 保健活動推進員と連携して、食生活の改善・食事の大切さを伝えていきます。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
家族と食事をとる人(1日1回、家で2人以上で食べることが多い人)	増加	高齢期	63.5%	69.7%	73.0%
脂っこいものを控えている人	増加	高齢期	71.6%	67.2%	75.0%
食塩を控えている人	増加	高齢期	67.6%	69.3%	75.0%
緑黄色野菜を毎日食べる人	増加	高齢期	43.2%	33.6%	45.0%
外食や食品の栄養分表示を参考にする人	増加	高齢期	16.2%	12.0%	20.0%

② 身体活動・運動

- ❖ 高齢者一人ひとりの心身の状況に応じた運動機能向上のための健康教室を実施します。
- ❖ 老人クラブと連携し、出前講座などを通じて、介護予防に効果のある運動を紹介します。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
運動習慣者	増加	高齢期	36.5%	34.7%	40.0%
意識的に運動を心がけている人	増加	高齢期	35.1%	33.2%	40.0%

③アルコール・たばこ

- ❖ 喫煙や受動喫煙が健康に及ぼす害に関する情報提供や講習会を実施します。
- ❖ 窓口における健康相談を行うことで、禁煙対策を推進します。
- ❖ 節度ある適度な飲酒と、飲酒が健康に与える影響についての情報提供や講習会を実施します。

④歯・口腔の健康

- ❖ 出前講座や健診結果説明会等を通じて、定期的な歯科健診の受診率向上や、日頃からの歯磨き習慣の定着を図ります。
- ❖ 広報や出前講座等を通じて、8020運動や義歯の正しい手入れ方法に関する周知・啓発活動を行います。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
フッ化物配合歯みがき剤を使用する人	増加	高齢期	19.6%	20.1%	25.0%
ブラッシング指導を受ける人	増加	高齢期	8.1%	10.6%	15.0%
歯間部清掃器具を使用する人	増加	高齢期	40.5%	48.2%	50.0%
定期的に歯石除去や歯面清掃を受ける人	増加	高齢期	18.9%	22.3%	25.0%
定期的に歯科健診を受ける人	増加	高齢期	37.2%	24.5%	35.0%
かかりつけ歯科医を持つ人	増加	高齢期	55.4%	55.1%	60.0%
8020運動を知っている人	増加	高齢期	42.6%	50.7%	60.0%
60歳で24歯以上自分の歯を有する人	増加	60歳	16.4%	77.8%	78.0%
80歳で20歯以上自分の歯を有する人	増加	80歳	15.9%	33.3%	35.0%

⑤休養・こころの健康

- ❖ 介護支援専門員、民生委員等、地域の中で「気づき、見守り、つながる」ことのできるゲートキーパーの育成及び周知を行います。
- ❖ うつや統合失調症等のこころの病気についての情報提供を行います。
- ❖ こころの健康について普及啓発を行い、相談できる体制の整備・周知を行います。
- ❖ 老人クラブ活動等をはじめとする社会活動への参加の促進等により、交流機会の増加を図ります。
- ❖ 高齢者の居場所づくり・仲間づくりを支援します。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
睡眠による休養を十分にとれていない人	減少	高齢期	27.7%	69.7%	50.0%
睡眠確保のために睡眠補助品やアルコールを使うことがある人	減少	高齢期	33.1%	29.9%	27.0%
ストレスを感じた人	減少	高齢期	64.2%	82.1%	75.0%
ストレスを感じた人のうち、解消できている人	増加	高齢期	51.4%	65.7%	70.0%
自殺者	減少		-	24.2% (平成28年度)	20.0%

⑥健康づくりを支える環境

- ❖ 認知症予防の活動を自主的に行うグループの支援を行います。
- ❖ 関係各課や関係団体と連携し、認知症の早期発見・早期治療につなげる体制を整備します。
- ❖ 健康教育等を通じて、ロコモティブシンドロームやフレイルの周知を行います。
- ❖ 出前講座や高齢者学級の実施を通じて、健康教育を実施します。
- ❖ 福祉や介護などの関係部署との連携を図りながら、健診受診者の増加を図ります。
- ❖ 健康寿命の延伸を支援する情報提供や体制を整備し、元気な高齢者の増加を図ります。

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
健康診断を受ける人	増加	高齢期	70.9%	70.4%	72.0%
がん検診を受ける人	増加	高齢期	66.2%	61.7%	70.0%
かかりつけ医を持つ人	増加	高齢期	83.1%	85.0%	88.0%
ロコモティブシンドロームを知っている人	増加	高齢者	-	26.6%	30.0%
健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている市民(子どもと高齢者を対象とする活動、防災、自然や環境を守る活動を含む)	増加	高齢期	-	21.2%	25.0%

第5章 計画の評価

1 指標と目標

① 栄養・食生活

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
朝食を欠食する人	減少	乳幼児期	10.6%	8.1%	5.0%
		学童期	6.0%	5.1%	4.0%
		思春期	7.4%	13.3%	9.0%
		成人期	19.6%	24.3%	18.0%
日に1回は家族全員が揃って食べる子ども	増加	乳幼児期	69.1%	70.2%	72.0%
		学童期	71.1%	70.1%	72.0%
		思春期	65.1%	71.0%	72.0%
日に1回は全員が揃わないが、家族と食べる子ども	増加	乳幼児期	86.2%	78.2%	80.0%
		学童期	74.7%	83.4%	85.0%
		思春期	77.2%	80.5%	82.0%
「家族で食事週間」を知っている保護者	増加	保護者	8.9%	5.0%	10.0%
家族と食事をとる人(1日1回、家で2人以上で食べることが多い人)	増加	成人期	73.7%	76.6%	80.0%
		高齢期	63.5%	69.7%	73.0%
小学生の肥満傾向児(内科検診)	減少	小学生	-	1.6% (平成28年度)	1.0%
脂っこいものを控えている人	増加	成人期	54.2%	46.7%	55.0%
		高齢期	71.6%	67.2%	75.0%
食塩を控えている人	増加	成人期	51.4%	41.4%	55.0%
		高齢期	67.6%	69.3%	75.0%
緑黄色野菜を毎日食べる人	増加	成人期	32.4%	29.0%	35.0%
		高齢期	43.2%	33.6%	45.0%
外食や食品の栄養分表示を参考にする人	増加	成人期	15.1%	13.7%	20.0%
		高齢期	16.2%	12.0%	20.0%

②身体活動・運動

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
運動習慣者	増加	成人期	26.3%	22.1%	30.0%
		高齢期	36.5%	34.7%	40.0%
意識的に運動を心がけている人	増加	成人期	29.1%	24.3%	30.0%
		高齢期	35.1%	33.2%	40.0%

③アルコール・たばこ

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
飲酒経験のある中高生	減少	中学生	12.8%	2.9%	0.0%
		高校生	19.7%	4.5%	0.0%
飲酒が健康に大いに害があると考えている子ども	増加	思春期	20.1%	19.9%	30.0%
喫煙経験のある中高生	減少	中学生	5.1%	1.0%	0.0%
		高校生	4.2%	0.8%	0.0%
喫煙が健康に大いに害があると考えている子ども	増加	思春期	96.0%	92.1%	100.0%
薬物について「心身に害がある」と認識している子ども	増加	中学生	82.1%	71.2%	80.0%
		高校生	78.9%	72.9%	80.0%
薬物について「1回使うくらいであれば害はない」と認識している子ども	減少	中学生	0.0%	0.0%	0.0%
		高校生	0.0%	0.8%	0.0%
喫煙の健康影響に関して知っている人（呼吸器※）	増加	成人期	93.9%	90.3%	95.0%
喫煙の健康影響に関して知っている人（循環器※）	増加	成人期	35.8%	33.6%	45.0%
喫煙の健康影響に関して知っている人（消化器※）	増加	成人期	15.6%	17.8%	20.0%
喫煙の健康影響に関して知っている人（妊婦に関連した異常）	増加	成人期	65.4%	69.2%	75.0%

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
喫煙の健康影響に関して 知っている人（歯周病）	増加	成人期	24.0%	32.4%	35.0%
喫煙の健康影響に関して 知っている人（乳幼児突然 死症候群）	増加	成人期	20.1%	23.7%	25.0%

※呼吸器：肺がん・ぜんそく・気管支炎・肺気腫

循環器：心臓病・脳卒中

消化器：胃かいよう・食道がん

④歯・口腔の健康

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
1日3回歯をみがく子ども	増加	乳幼児～ 小学生	37.9%	33.4%	40.0%
よく噛んで食べるよう子どもに指導している保護者	増加	保護者	78.4%	72.6%	80.0%
仕上げみがきをしている保護者	増加	乳幼児保護者	94.7%	86.5%	95.0%
		小学生保護者	38.6%	30.6%	40.0%
う歯のない3歳児	増加	3歳	73.4%	84.9% (平成28年度)	86.0%
むし歯予防法を知っている保護者	増加	乳幼児～ 小学生	81.1%	78.3%	85.0%
8020運動を知っている保護者	増加	保護者	63.7%	55.5%	70.0%
フッ化物配合歯みがき剤を使用する人	増加	成人期	26.8%	33.0%	40.0%
		高齢期	19.6%	20.1%	25.0%
ブラッシング指導を受ける人	増加	成人期	10.6%	6.2%	10.0%
		高齢期	8.1%	10.6%	15.0%
歯間部清掃器具を使用する人	増加	成人期	41.3%	49.2%	55.0%
		高齢期	40.5%	48.2%	50.0%
定期的に歯石除去や歯面清掃を受ける人	増加	成人期	15.6%	18.1%	20.0%
		高齢期	18.9%	22.3%	25.0%

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
定期的に歯科健診を受ける人	増加	成人期	24.6%	21.2%	30.0%
		高齢期	37.2%	24.5%	35.0%
かかりつけ歯科医を持つ人	増加	成人期	30.7%	34.9%	40.0%
		高齢期	55.4%	55.1%	60.0%
8020運動を知っている人	増加	成人期	55.9%	53.6%	70.0%
		高齢期	42.6%	50.7%	60.0%
60歳で24歯以上自分の歯を有する人	増加	60歳	16.4%	77.8%	78.0%
80歳で20歯以上自分の歯を有する人	増加	80歳	15.9%	33.3%	35.0%

⑤休養・こころの健康

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
睡眠による休養を十分にとれていない人	減少	成人期	44.7%	50.2%	40.0%
		高齢期	27.7%	69.7%	50.0%
睡眠確保のために睡眠補助品やアルコールを使うことがある人	減少	成人期	19.6%	19.6%	18.0%
		高齢期	33.1%	29.9%	27.0%
ストレスを感じた人	減少	成人期	79.9%	85.4%	80.0%
		高齢期	64.2%	82.1%	75.0%
ストレスを感じた人のうち、解消できている人	増加	成人期	65.9%	76.6%	80.0%
		高齢期	51.4%	65.7%	70.0%
自殺者	減少		-	24.2% (平成28年度)	20.0%

⑥健康づくりを支える環境

指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標	
			平成24年度 の現状			
健康診断を受ける人	増加	成人期	71.5%	60.1%	75.0%	
		高齢期	70.9%	70.4%	72.0%	
がん検診を受ける人	増加	成人期	57.5%	44.2%	55.0%	
		高齢期	66.2%	61.7%	70.0%	
かかりつけ医を持つ人	増加	成人期	48.6%	50.8%	55.0%	
		高齢期	83.1%	85.0%	88.0%	
低出生体重児の出生割合	減少		-	11.1% (平成28年度)	10.0%	
21時以降に寝る子ども	減少	乳幼児	84.1%	79.4%	85.0%	
早寝・早起き・朝ごはんを 実践している子ども	増加	学童期	56.6%	22.9%	40.0%	
睡眠による休養を十分に とれていない子ども	減少	思春期	37.6%	25.7%	20.0%	
安心して子どもを遊ばせ られる場所が近所にある と感じている保護者	増加	保護者	62.6%	67.2%	70.0%	
外で遊ぶ機会が多いと感じ ている保護者	増加	保護者	52.1%	52.5%	55.0%	
育児について相談相手があ る母親	増加	母親	92.1%	95.3%	98.0%	
子育てに参 加する父親	よくしている	増加	父親	40.5%	43.5%	45.0%
	時々している	増加	父親	36.8%	33.8%	40.0%
子どもと一緒 に遊ぶ父親	よく遊ぶ	増加	父親	35.3%	39.1%	40.0%
	時々遊ぶ	増加	父親	41.1%	37.1%	40.0%
子育てに自信が持てない 母親	減少	母親	54.7%	56.5%	50.0%	
子どもを虐待していると思 うことがある保護者	減少	保護者	12.6%	12.4%	10.0%	
子育てについて必要な情 報が得られていると感じ ている保護者	増加	保護者	54.7%	68.2%	70.0%	

指標	増減	対象	第7次計画		平成29年度		平成34年度	
			平成24年度 の現状		の現状		の目標	
子どもが必要時に必要な医療が受けられていると思う保護者	増加	保護者	50.0%		61.2%		65.0%	
乳幼児健診受診率	増加	4か月	平成23年度	96.7%	平成28年度	97.8%	100.0%	
		9か月		96.1%		97.2%	100.0%	
		1.6歳		97.9%		100.0%	100.0%	
		3歳		98.5%		97.2%	100.0%	
		2歳歯科		93.1%		98.3%	100.0%	
自分を大切にできていると感じている子ども	増加	思春期	86.6%		90.9%		93.0%	
育児は家族全員でするものとする子ども	増加	思春期	57.0%		62.2%		65.0%	
赤ちゃんを抱っこしたことがある子ども	増加	思春期	76.5%		69.7%		75.0%	
家族とよく話す子ども	増加	思春期	59.1%		64.3%		65.0%	
親友と呼べる人がいる子ども	増加	思春期	87.2%		85.1%		88.0%	
ストレスを発散できていると感じる子ども	増加	思春期	-		38.2%		45.0%	
避妊に関して正しい知識を持っていると考えている高校生	増加	高校生	71.8%		59.4%		72.0%	
性感染症の認知率	クラミジア	増加	高校生	56.3%	43.6%		50.0%	
	淋病	増加		25.4%	26.3%		30.0%	
	エイズ(HIV)	増加		98.6%	92.5%		100.0%	
	梅毒	増加		42.3%	42.1%		45.0%	
	性器ヘルペス	増加		36.6%	40.6%		45.0%	
避妊に関する情報を学校の授業等から得ている中高生	増加	中学生	23.1%		75.0%		80.0%	
		高校生	69.0%		92.4%		95.0%	
性感染症に関する情報を学校の授業等から得ている中高生	増加	中学生	74.4%		75.7%		80.0%	
		高校生	95.8%		91.1%		96.0%	

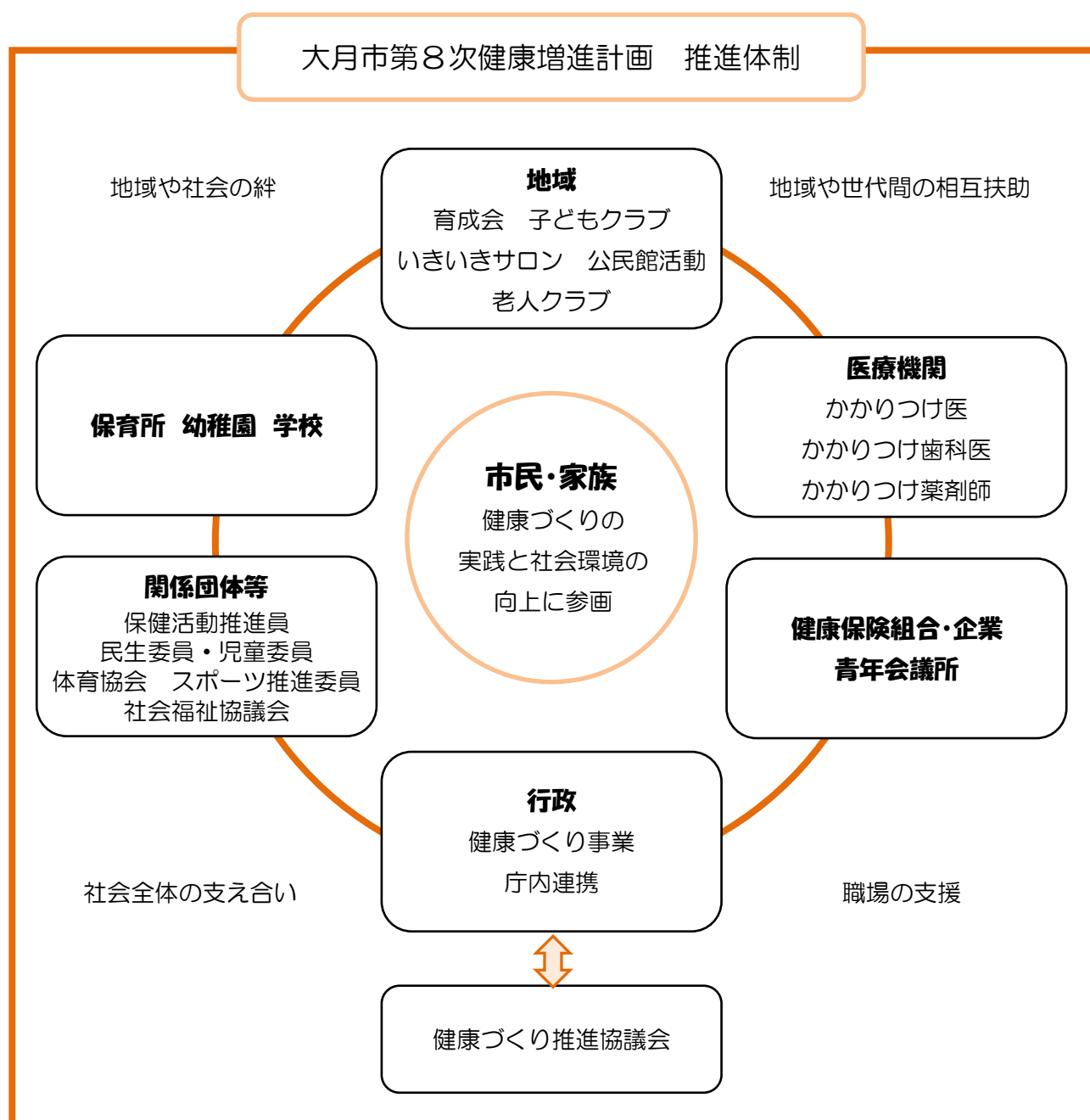
指標	増減	対象	第7次計画	平成29年度 の現状	平成34年度 の目標
			平成24年度 の現状		
ロコモティブシンドロームを知っている人	増加	高齢者	-	26.6%	30.0%
地域との交流機会が多い子ども(近所付き合いの機会がよくある)	増加	中学生	11.8%	22.1%	25.0%
		高校生	18.3%	12.0%	20.0%
地域との交流機会が多い子ども(地域活動等への参加機会がよくある)	増加	中学生	14.5%	22.1%	25.0%
健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている市民(子どもと高齢者を対象とする活動、防災、自然や環境を守る活動を含む)	増加	成人期	-	7.8%	10.0%
		高齢期	-	21.2%	25.0%

第6章 計画の推進体制

1 計画の推進体制

計画を推進するため、庁内関係課が連携を図るとともに、行政、地域のボランティア・各種関係団体等が相互に連携して計画の推進に取り組むことが大切です。

このため、地域で行われている健康づくり活動の他、子どもや高齢者を対象とした活動などにも「健康づくり」の視点を加え、健康づくり活動が市民の生活の中でつながるよう図ることが大切です。



2 計画の進行管理・評価

本計画を効果的・効率的に推進していくためには、各施策や事業、目標についての進捗状況をチェックする評価・管理体制の確立が必要となります。

PDCAサイクルを確立し、計画の進行管理・評価を行うとともに、各種会議を通じて、市民の声を取り入れていきます。

■PDCAサイクルとは

Plan（計画）→Do（実行）→Check（検証）→Action（改善）を繰り返し、業務を継続的に改善する仕組みのこと。

